新

第3,4回:基礎的データのまとめと,研究進捗報告 書作成

第5,6回:課題点の探索と評価

第7,8回:研究進捗報告及び主指導・副指導教員と のディスカッション

2年次前期(全15回)

第1,2回:研究結果の再評価と研究計画の修正・確 定

第3,4回:研究結果に基づいた解析方法の見直し等

第5,6回:先端的研究手法を用いた解析と結果の取得

第7,8回:先端的研究手法により得られた結果の評 価

第9,10回:研究進捗報告及び主指導・副指導教員と のディスカッション

第 11, 12 回:研究計画,実施目標の再確認と研究手 法の妥当性評価

第 13 回 : 研究結果取得

第14,15回:研究結果のまとめ

2年次後期(全15回)

第1,2回:論文作成に向けた研究結果の再整理

第3, 4回:論文作成-序論,目的,手法を中心に

第5,6回:論文作成-結果を中心に 第7,8回:論文作成-考察を中心に

第9,10回:論文推敲と修正

第 11, 12 回:主指導・副指導教員との論文内容の再 確認

第 13 回 :論文内容と研究倫理の整合性確認

第 14 回 :研究報告の準備

第 15 回 : 研究報告と質疑応答

(117ページ)

物質環境化学特別演習

1年次前期(全8回)

第1回:研究者倫理,技術者倫理教育

第2回, 3回:物質環境化学分野における文献調査,

発表と質疑討論

第4回,5回:個人ごとの課題に関する先行論文の調 査,発表と質疑討論

第6回,7回:先行論文に関するデータ解析,考察と 質疑討論

第8回: 先行研究に関する研究開発動向調査, 考察の まとめ, 質疑討論 旧

験結果の解析方法の修得

研究進捗報告及び主指導・副指導教員とのディスカッション

2年次前期(全15回)

第 $1\sim15$ 回:研究の実施、研究手法の見直し等、研究の実施、

調査・実験結果の解析方法の見直し等

研究進捗報告及び主指導,副指導教員とのディスカッション

2年次後期(全15回)

第 $1 \sim 15$ 回:研究の実施、研究の取りまとめ、修士論文の作成・発表

(114ページ)

物質環境化学特別演習

1年次前期(全8回)

第1回:研究者倫理,技術者倫理教育

第2~8回:物質環境化学分野における文献調査発表と 質疑討論

1年次後期(全8回)

第1~8回:物質環境化学分野における文献調査発表と 質疑討論

境界領域・学際的領域の観点から農芸化学分野に関するデ <u>ィスカッション</u>

1年次後期(全8回)

第1回, 2回:物質環境化学分野における文献調査, 発表と質疑討論

新

第3回,4回:個人ごとの課題に関する先行論文の調査,発表と質疑討論

第5回,6回:先行論文に関するデータ解析,考察と 質疑討論

第7回,8回:先行研究に関する研究開発動向調査, 考察のまとめ,質疑討論

2年次前期(全8回)

第1回:研究者倫理,技術者倫理教育

第2回, 3回:物質環境化学分野における文献調査,

発表と質疑討論

第4回,5回:個人ごとの課題に関する先行論文の調査,発表と質疑討論

第6回,7回:先行論文に関するデータ解析,考察と 質疑討論

第8回: 先行研究に関する研究開発動向調査, 考察の まとめ、質疑討論

2年次後期(全8回)

第1回, 2回:物質環境化学分野における文献調査, 発表と質疑討論

第3回,4回:個人ごとの課題に関する先行論文の調査,発表と質疑討論

第5回,6回:先行論文に関するデータ解析,考察と 質疑討論

第7回,8回:先行研究に関する研究開発動向調査,

(119ページ)

物質環境化学特別研究

考察のまとめ, 質疑討論

1年次前期(全8回)

第1回:研究者倫理教育,研究テーマの設定,研究の 必要性・背景に関するディスカッション

第2回,3回:研究テーマに関する実験手法,解析手 法を修得,研究の実施

第4回,5回:研究テーマに関する実験及び解析の先端的手法を修得,研究の実施

第6回,7回:実験結果に関するディスカッション, 先行研究のまとめ、研究の実施

第8回:研究進捗の報告,先行研究のまとめに関する 報告,

主指導・副指導教員等とのディスカッション

2年次前期(全8回)

第1回:研究者倫理,技術者倫理教育

第2~8回:物質環境化学分野における文献調査発表と 質疑討論

ĺΗ

2年次後期(全8回)

第 $1\sim8$ 回:物質環境化学分野における文献調査発表と 質疑討論

境界領域・学際的領域の観点から農芸化学分野に関するディスカッション

(118ページ)

物質環境化学特別研究

1年次前期(全8回)

第1~3回:研究者倫理,研究テーマの設定,先行研究 の調査,研究の必要性・背景の理解

第4~8回: 先行研究のまとめと報告, 研究手法の修得, 研究の実施, 研究進捗報告及び主指導・副指導教員とのディスカッション

1年次後期(全8回)

第1~4回:研究計画の確定,研究手法の修得,研究の 実施 (研究進捗報告を含む)

第5~8回:研究手法の修得,研究の実施,調査・実験 結果の解析方法の修得

研究進捗報告及び主指導・副指導教員とのディスカッショ

新 1年次後期(全8回) 第1回:研究計画に関するディスカッション,研究手 境界領域・学際的領域の観点から農芸化学分野に関するデ 法の修得 ィスカッション 第2回, 3回:実験及び解析の先端的手法を修得,研 究の実施 2年次前期(全15回) 第4回, 5回:実験結果に関するディスカッション, 第1~15回:研究手法の見直し等,研究の実施,調査・ 研究の実施 実験結果の解析方法の見直し等 研究進捗報告及び主指導,副指導教員とのディスカッショ 第6回,7回:データ解析結果に関するディスカッシ ョン, 先行研究のまとめ, 研究の実施 第8回:研究進捗の報告, 先行研究のまとめに関する 報告, 2年次後期(全15回) 主指導・副指導教員等とのディスカッション 第1~15回:研究の実施, 主指導, 副指導教員とのディ スカッション, 2年次前期(全15回) 境界領域・学際的領域の観点から農芸化学分野に関するデ 第1回,2回:研究計画に関するディスカッション, イスカッション 研究手法の見直し等に関するディスカッション 研究の取りまとめ,修士論文の作成 第3回,4回,5回:実験及び解析の先端的手法を修 得,研究の実施 第6回,7回,8回:実験結果に関するディスカッシ ョン,研究の実施 第9回,10回,11回:データ解析結果・先行研究に 関するディスカッション, 研究の実施 第12回,13回:研究成果の総合的なディスカッショ ン、研究の実施 第 14 回:研究進捗の報告,主指導・副指導教員等と のディスカッション

第15回:研究成果の模擬報告・発表

2年次後期(全15回)

第1回:研究計画,修士論文の概要に関するディスカ <u>ッション</u>

第2回, 3回:研究の実施

第4回,5回,6回:研究背景に関する修士論文の作 成,研究の実施

第7回,8回,9回:データ解析と考察,修士論文の 作成,研究の実施

第 10 回, 11 回, 12 回:データ解析結果に関するディ スカッション,

修士論文の作成, 研究の実施

第13回,14回:主指導・副指導教員と研究成果に関 する総合的なディスカッション,

修士論文の作成

第15回:修士論文の内容に関するディスカッション

(127 ページ)

農芸化学特別演習

(135 ページ)

農芸化学特別演習

新

1年次前期(全8回)

第1回:過去の研究結果や背景,および問題点の確認

第2回:研究計画の立案と妥当性の検討

第3回:研究計画の新規性と期待される結果の評価

第4回:基礎的な研究手法の確認と探索

第5回:研究に用い得る先端的な研究手法の探索と妥

当性の評価

第6回:研究計画と研究倫理の適合性の評価

第7回:研究計画についての集団討議

第8回:研究内容に関して,物質環境化学分野の視点

を踏まえたディスカッション

1年次後期(全8回)

第1回:研究に関連する学術論文の探索

第2回:研究に関連する技術論文の探索

第3回:研究に関連する総説の探索

第4回:学術論文の読み方について-序論,目的,手

法の読み方を重点的に

第5回:学術論文の読み方について-結果,考察の読

み方を重点的に

第6回:学術論文の読み方について-情報の評価と利

用法について

第7回:学術論文の内容紹介と論議

第8回:物質環境化学分野の視点を踏まえた論文調査

2年次前期(全8回)

第1回:得られた研究結果と関連論文をもとに問題点

の確認

第2回:研究結果の妥当性検討

第3回:研究結果の新規性確認と以降の研究計画の立

案

第4回:研究手法の改善検討

第5回:新たな課題に対する研究手法の再探索と妥当

性の評価

第6回:研究計画と研究倫理の適合性の再評価

第7回:研究計画についての集団討議

第8回:研究内容に関して,物質環境化学分野の視点

を踏まえたディスカッション

2年次後期(全8回)

第1,2回:研究結果の総括

第3,4回:研究結果と先行研究との比較評価

第5,6回:以降の研究に向けた研究計画立案

第7回:研究結果の評価

第8回:研究結果に関する集団討議

1年次前期(全8回)

第1~3回:研究計画の立案

第4~6回:研究手法の探索と妥当性検討

第7回:研究計画についての集団討議

第8回:研究内容に関して,物質環境化学分野との関連

性のディスカッション

1年次後期(全8回)

第1~3回:研究関連の学術論文の探索

第4~6回:学術論文の読み方について

第7回:学術論文の内容紹介と論議

第8回:物質環境化学分野との関連性のある論文調査

2年次前期(全8回)

第1~4回:研究計画と実験方法の再検討

第5~8回:学術論文の継続的調査

2年次後期(全8回)

第1~8回:全体総括

IΗ (129 ページ) (139ページ) 農芸化学特別研究 農芸化学特別研究 1年次前期(全8回) 1年次前期(全8回) 第1,2回:研究テーマ設定と研究計画立案 第1~4回:生命化学実験,研究の倫理,研究テーマの 設定, 先行研究の調査, 第3回:研究倫理と研究計画の整合性評価 第5~8回:研究の必要性・背景の理解, 先行研究のま 第4回:研究計画と先行研究の結果の重複調査, 第5,6回:研究背景,目的の整理と妥当性評価 とめと報告 第7回:基礎的な研究手法の調査と習得 第8回:基礎的データの取得と評価 1年次後期(全8回) 第1~4回:研究計画の確定,研究手法の修得,研究の 1年次後期(全8回) 実施(研究進捗報告を含む) 第1,2回:基礎的データに基づいた,研究計画の修正・ 第5~8回:研究手法の修得,研究の実施,調査・実験 結果の解析方法の修得 第3,4回:基礎的データのまとめと,研究進捗報告書 研究進捗報告及び主指導・副指導教員とのディスカッショ 作成 第5回:課題点の探索と評価 2年次前期(全15回) 第6,7回:先端的研究手法の調査と習得 第8回:研究進捗報告及び主指導・副指導教員とのディ 第1~14回:研究手法の見直し等,研究の実施,調査・ スカッション 実験結果の解析方法の見直し等 研究進捗報告及び主指導,副指導教員とのディスカッショ 2年次前期(全15回) 第1,2回:研究結果の再評価と研究計画の修正・確定 第 15 回:物質環境化学分野に関連したディスカッショ 第3,4回:研究結果に基づいた解析方法の見直し等 第5,6回:先端的研究手法を用いた解析と結果の取得 2年次後期(全15回) 第7,8回:先端的研究手法により得られた結果の評価 第9,10回:研究進捗報告及び主指導・副指導教員と 第1~15回:研究の実施,研究の取りまとめ,修士論文 のディスカッション <u>の作成</u> 第10,11回:研究計画,実施目標の再確認と研究手 法の妥当性評価 第12,13回:研究結果取得 第14,15回:研究結果のまとめ 2年次後期(全15回) 第1,2回:論文作成に向けた研究結果の再整理 第3,4回:論文作成-序論,目的,手法を中心に 第5,6回:論文作成-結果を中心に 第7,8回:論文作成-考察を中心に 第9,10回:論文推敲と修正 第11,12回:主指導・副指導教員との論文内容の再 確認 第13回:論文内容と研究倫理の整合性確認 第14回:研究報告の準備 第15回:研究報告と質疑応答 (143 ページ) (132 ページ)

材料·接合工学

材料・接合工学

新	IΒ
(略)	(略)
第8週 受講生によるプレゼンテーション(材料工学分	第8週~第14週 受講生による個別テーマのプレゼンテ
野の環境負荷低減技術),	$-\flat = \flat \vee (1) \sim (7)$
第9週 受講生によるプレゼンテーション(エコマテリ	第15週 まとめ(担当教員による個別テーマに関するコ
アルとエコマテリアル化),	メント等)
第10週 受講生によるプレゼンテーション (プロセス	2 - (4)
制御重視型材料開発),	
第11週 受講生によるプレゼンテーション(機能付与	
構造材料),	
第12週 受講生によるプレゼンテーション(強ひずみ	
加工と結晶粒微細化),	
第13週 受講生によるプレゼンテーション(結晶方位	
制御技術と材料特性),	
第14週 受講生によるプレゼンテーション(マルチマ	
テリアル化と異種材料接合技術),	
第15週 まとめ(担当教員による各テーマに関するコ	
メント等)_	
(133 ページ)	(144 ページ)
生産技術工学	生産技術工学
第1週 ガイダンス	第1週 ガイダンス
第2週 母性原則と超精密加工	第2週 超精密研削加工
第3週 超精密加工機の構成要素	第3週 メカノケミカルポリシング
第4週 超精密加工工具	第4週 スパッタ技術
第5週 超精密研削技術	第5週~第14週 最先端生産技術に関する調査・プレゼ
第6週 メカノケミカルポリッシング	<u>ンテーション・レポート作成</u>
第7週 非球面レンズの製造	第15週 まとめ
第8週 最先端生産技術に関する調査・プレゼンテーシ	
ョン(超精密切削技術)	
第9週 最先端生産技術に関する調査・プレゼンテーシ	
ョン(超精密研削技術)	
第10週 最先端生産技術に関する調査・プレゼンテー	
ション(超精密研磨技術)	
第11週 最先端生産技術に関する調査・プレゼンテーション (メカノケミカルポリッシング)	
第12週 最先端生産技術に関する調査・プレゼンテー	
第12週 取元端生産技術に関する調査・プレビンケーション (特殊加工技術)	
第13週 最先端生産技術に関する調査・プレゼンテー	
ション(ナノオーダー位置決め機構)	
第14週 最先端生産技術に関する調査・プレゼンテー	
ション(超精密測定技術)	
第15週 まとめ	
(134ページ)	(145 ページ)
先端精密加工学	先端精密加工学
(略)	(略)

第6週: 研磨加工の現在と未来(1) 第6週:研磨加工の現在と未来 第7週:特殊加工(放電加工,レーザ加工) 第7週: 研磨加工の現在と未来(2) 第8週:特殊加工 (超音波加工,電解、電鋳加工) 第8週: 特殊加工(1) 第9週:特殊加工(エッチング加工,界面反応加工) 第9週: 特殊加工(2) 第10週:新しい加工技術 第10週: 新しい加工技術 第 11 週:特定課題(超精密切削)について、レポート 第11週~第14週 精密加工に関係する特定課題の設定, レポート作成, プレゼンテーション・質疑応答. 作成, 口頭発表・質疑応答 第15週: まとめ 第12週:特定課題(ELID研削)について,レポート作 成, 口頭発表·質疑応答 第13週:特定課題(光学部品の精密加工)について, レポート作成、口頭発表・質疑応答 第14週:特定課題(半導体部品の精密加工)について, レポート作成、口頭発表・質疑応答 第15週:まとめ (139 ページ) (152 ページ) 知能ロボット 知能ロボット 第 1 週 知的エージェント特論の概要 第 1 週 知的エージェント特論の概要 第 2 週 知的エージェント 第2週 知的エージェント 第 3 週 探索:探索による問題解決,解の探索,情報の 第 3~4 週 探索 ない探索戦略 第 5~6週 プランニング 第 4 週 探索:繰返し状態の回避,部分的知識をもつ探 第 7~8週 学習 第 9 週 ロボティクス 第 5 週 状態空間探索によるプランニング 第 10 週 ロジスティクス (物流) 第 6週 実世界におけるプランニングと行為 第11~14週 英語論文輪講 第15週 本講義のまとめ 第 7 週 確率推論 第 8 週 意思決定問題 第 9 週 機械学習における知識 第 10 週 統計的学習手法 第11週 強化学習 第12週 ロボティクス 第13週 ロジスティクス(物流) 第14週 英語論文輪講 第15週 本講義のまとめ (144ページ) (157ページ) 機械知能工学特別演習 機械知能工学特別演習 (略) (略) 1年次前期(全8回) 1年次前期(全8回) 第1~2回:当該研究テーマに関する従来研究の調査・ 第1~2回:当該研究テーマに関する従来研究の調 研究目的の策定 査・研究目的の策定 第3~4回:研究計画の策定 第3~4回:研究計画の策定 第5~8回:解析手法や実験手法など研究実行に必要な 第5~6回:研究実行に必要な解析手法の修得 スキルの修得 第7~8回:研究実行に必要な実験手法の修得 1年次後期(全8回) 1年次後期(全8回)

新

第1~2回:研究計画の見直し

第3~4回:研究実行に必要な解析手法の修得と当該 研究テーマへの応用

第5~6回:研究実行に必要な実験手法の修得と当該 研究テーマへの応用

第7~8回:解析結果・実験結果などの評価・考察

2年次前期(全8回)

第1~2回:研究計画の見直し

第3~4回:解析結果などの評価・考察,研究実行に

必要な発展的な解析手法の修得

第5~6回:実験結果などの評価・考察,研究実行に

必要な発展的な実験手法の修得

第7~8回:連携研究室内などでの発表会・学会発表

に用いる結果・データの整理

2年次後期(全8回)

第1~2回:研究計画の見直し

第3~4回:発展的な解析手法による結果の評価・考

察

第5~6回:発展的な実験手法による結果の評価・考

察

第7~8回:修士論文作成、修論発表、学会発表に用

いる結果・データの整理

(146 ページ)

機械知能工学特別研究

(略)

1年次前期(全8回)

第1回:研究者倫理に関する指導と研究者としての心 構えの修得

第2回:研究課題に関する指導教員・副指導教員との ディスカッション

第3回:ディスカッションに基づく先行研究の調査

第4回:研究目的の策定

第5~6回:研究に用いる解析手法や実験手法などの

スキルの修得

第7回:報告書作成・発表技術の修得

第8回:修得した解析手法,実験手法に関する発表

1年次後期(全8回)

第1~2回:修得した解析手法,実験手法に基づく研

究計画の推進

第3~4回:解析結果についての評価・考察と研究進

捗報告

第5~6回:実験結果についての評価・考察と研究進

旧

第1回:研究計画の見直し

第2~6回:解析手法や実験手法など研究実行に必要な

スキルの修得と当該研究テーマへの応用

第7~8回:解析結果・実験結果などの評価・考察

2年次前期(全8回)

第1回:研究計画の見直し

第2~7回:解析結果・実験結果などの評価・考察

第8回:連携研究室内などでの発表会・学会発表に用い

る結果・データの整理

2年次後期(全8回)

第1回:研究計画の見直し

第2~7回:解析結果・実験結果などの評価・考察

第8回:修士論文作成、修論発表、学会発表に用いる結

果・データの整理

(161ページ)

機械知能工学特別研究

(略)

1年次前期(全8回)

第1~3回:指導教員・副指導教員とのディスカッションを参考に先行研究を調査し各自の研究目的を策定する。

第4~8回:研究計画を策定し研究に用いる解析手法や 実験手法などのスキルを修得する。さらにその経過をゼミなどで発表し、技術者としての報告書作成・発表技術を修 得し、同時に研究者倫理に関する指導を受けながら研究者 としての心構えを身につける。

1年次後期(全8回)

第1~7回:解析・実験手法などのスキルの習熟度を高め、その解析結果・実験結果などの評価・考察を継続発展させる。研究進捗報告を通してアドバイスを受け、さらに研究計画を推進する。

第8回:中間発表(修士論文模擬発表)にてこれまで研究成果について、コース教員ならびにコース所属の学生の前で口頭発表を行う。

ter	la la	
新	旧	
<u>排報告</u>	2年次前期(全8回)	
第7回:修士論文中間発表の準備	第1~8回:解析結果・実験結果などの評価・考察を継	
第8回:コース教員ならびにコース所属の学生の前で	続発展させ、研究進捗報告を通してアドバイスを受け、さ ************************************	
の中間発表(修士論文模擬発表)	らに研究計画を推進する。この間、適宜連携研究室内など	
	での研究発表を実施すると同時に関連する学会発表を目	
2年次前期(全8回)	指して発表準備を行う	
第1~2回:研究進捗状況に関する指導教員・副指導		
教員とのディスカッション	2年次後期(全8回)	
第3回:研究計画の見直し	第1~6回:解析結果・実験結果などの評価・考察を継	
第4~5回:発展的な解析手法の修得と研究計画の推	<u>続発展させ、研究進捗報告を通してアドバイスを受け、さ</u>	
<u>進</u>	らに研究計画を推進する。この間、適宜連携研究室内など	
第6~7回:発展的な実験手法の修得と研究計画の推	での研究発表を実施すると同時に関連する学会発表を目	
進	指して発表準備を行う。	
第8回:連携研究室内などでの研究発表	第7~8回:修士論文の作成・修論発表を行う。	
2年次後期(全8回)		
第1~2回:研究進捗状況に関する指導教員・副指導		
教員とのディスカッション		
第3~4回:修士論文の構成の検討		
第5回:解析結果,実験結果のまとめ		
第6~7回:修士論文の作成		
第8回:修士論文発表		
(160 ページ)	(180ページ)	
光制御回路工学	光制御回路工学	
(mfr)	(mfr.)	
第7回 ステップインデックス型光ファイバ電磁界の	第7-8回 ステップインデックス型光ファイバ:特性方程	
数式表現	式、モード	
第8回 ステップインデックス型光ファイバの伝送モ	第9-10回 干渉計測,干渉素子	
一ドと特性方程式	(略)	
第9回 干渉計測		
第10回 干涉素子		
(略)		
(176ページ)	(196ページ)	
感性情報処理システム	感性情報処理システム	
(mtr)	(m/cr)	
(略)	(略)	
第 11 週 人間情報処理系の測定法と実際 1 (人間情報	第 11 週人間情報処理系の測定法と実際 (心理的側面) そ	
処理系の見方、心理的反応のレベル)		
第 12 週 人間情報処理系の測定法と実際 2 (心理物理	第12週人間情報処理系の測定法と実際(心理的側面) そ	
測定法、尺度構成法) 第 12 周 人即使報知明系の測字法と実際 2 (神経活動	の2	
第 13 週 人間情報処理系の測定法と実際 3 (神経活動	第 13 週人間情報処理系の測定法と実際 (生理的側面) そ	
の測定法、生体機能の測定法)	の1	
第 14 週 人間情報処理系の測定法と実際 4 (生体機能	第 14 週人間情報処理系の測定法と実際 (生理的側面) そ	
の記述とモデル・シミュレーション)	$\frac{O2}{A}$	
第 15 週 全体のまとめ	第 15 週全体のまとめ	

(177 ページ) (197ページ) コンピュータグラフィックス特論 コンピュータグラフィックス特論 (略) (略) 第3週 座標変換とパイプライン(1) 第3週 座標変換とパイプライン(1) - 座標系と座標変 第4週 座標変換とパイプライン(2) 第5週 モデリング(1) 第4週 座標変換とパイプライン(2) - 投影とビューイ 第6週 モデリング(2) ングパイプライン 第5週 モデリング(1) - 形状モデル 第7週 レンダリング(1) 第6週 モデリング(2) - 曲線と曲面 第8週 レンダリング(2) 第7週 レンダリング(1) - 写実的表現法 第9週 レンダリング(3) 第8週 レンダリング(2) - シェーディング 第10週 アニメーション(1) 第9週 レンダリング(3) - 照明モデル 第11週 アニメーション(2) 第 10 週 アニメーション(1) - CG<u>アニメーションの構</u> 第12週 アニメーション(3) (略) 第11週 アニメーション(2) - キーフレーム技法 第12週 アニメーション(3) - 人表現 (略) (199ページ) (179 ページ)

情報電気電子システム工学特別演習

情報電気電子システム工学特別研究の進捗にあわせ、そ れに必要な実験・実習を順次実施する。詳細は、各指導 教員の指示による。以下は平均的な授業計画の流れ。

1年次前期(全8回)

第1~2回:当該研究テーマに関する従来研究の調 香・研究目的の策定

第3~4回:研究計画の策定

第5~6回:解析手法や実験手法などに関する基本的 スキルの修得

第7~8回:解析手法や実験手法などに関する先端的 スキルの修得

1年次後期(全8回)

第1~2回:解析手法や実験手法など研究実行に必要 なスキルの当該研究テーマへの応用

第3~4回: 当該研究テーマ実行のための解析手法や 実験手法の改良

第5~7回:解析結果・実験結果などの評価・考察 第8回:研究計画の見直し

2年次前期(全8回)

第1~2回:解析結果・実験結果などの評価・考察 第3~4回:解析結果・実験結果の考察に基づく次段

階の解析・実験計画の立案

情報電気電子システム工学特別演習

情報電気電子システム工学特別研究の進捗にあわせ、それ に必要な実験・実習を順次実施する。詳細は、各指導教員 の指示による。以下は平均的な授業計画の流れ。

1年次前期(全8回)

第1~2回:当該研究テーマに関する従来研究の調査・ 研究目的の策定

第3~4回:研究計画の策定

第5~8回:解析手法や実験手法など研究実行に必要な スキルの修得

1年次後期(全8回)

第1~4回:解析手法や実験手法など研究実行に必要な スキルの修得と当該研究テーマへの応用

第5~7回:解析結果・実験結果などの評価・考察 第8回:研究計画の見直し

2年次前期(全8回)

第1~6回:解析結果・実験結果などの評価・考察 第7回:研究対象技術の農学分野などへの応用に関する ディスカッション等

第8回:連携研究室内などでの発表会・学会発表に用い る結果・データの整理

2年次後期(全8回)

新

第 $5 \sim 6$ 回: 再度取得した解析結果・実験結果などの評価・考察

第7回:研究対象技術の農学分野などへの応用に関するディスカッション等

第8回:連携研究室内などでの発表会・学会発表に用いる結果・データの整理

2年次後期(全8回)

第1~2回:解析結果・実験結果などの評価・考察

第3~4回:解析結果・実験結果の考察に基づく次段

階の解析・実験計画の立案

第5~6回:再度取得した解析結果・実験結果などの

評価・考察

第7~8回:修士論文作成、修論発表、学会発表に用

いる結果・データの整理

(181 ページ)

情報電気電子システム工学特別研究

詳細は、各指導教員の指示による。以下は平均的な授業 計画の流れ。

1年次前期(全8回)

第1~2回:指導教員・副指導教員とのディスカッションを参考に先行研究を調査し各自の研究目的を策定する。

第3~4回:研究計画を策定し研究に用いる解析手法 や実験手法などの基本的スキルを修得する。

第5~6回:解析手法や実験手法などの基礎について ゼミなどで発表し、技術者としての報告書作成・発表技 術を修得し、同時に研究者倫理に関する指導を受けなが ら研究者としての心構えを身につける。

第7~8回:解析手法や実験手法などのより発展的なスキルを修得し、研究に応用する。

1年次後期(全8回)

第1~3回:解析・実験手法などのスキルの習熟度を 高め、その解析結果・実験結果などの評価・考察を継続 発展させる。

第4回:研究進捗報告を通してアドバイスを受け、次の段階の研究計画を立案する。

第5回~8回:研究目的に至るまでの課題等を整理 し、必要に応じて研究計画の見直しを行う。

2年次前期(全8回)

第1~3回:解析・実験手法など、さらに先端的なスキルを修得し、その解析結果・実験結果などの評価・考

IΒ

第1~7回:解析結果・実験結果などの評価・考察 第8回:修士論文作成、修論発表、学会発表に用いる結 果・データの整理

(202 ページ)

情報電気電子システム工学特別研究

詳細は、各指導教員の指示による。以下は平均的な授業計画の流れ。

1年次前期(全8回)

第1~3回:指導教員・副指導教員とのディスカッションを参考に先行研究を調査し各自の研究目的を策定する。 第4~8回:研究計画を策定し研究に用いる解析手法や 実験手法などのスキルを修得する。さらにその経過をゼミなどで発表し、技術者としての報告書作成・発表技術を修得し、同時に研究者倫理に関する指導を受けながら研究者としての心構えを身につける。

1年次後期(全8回)

第1~7回:解析・実験手法などのスキルの習熟度を高め、その解析結果・実験結果などの評価・考察を継続発展させる。研究進捗報告を通してアドバイスを受け、さらに研究計画を推進する。

第8回:研究目的に至るまでの課題等を整理し、必要に 応じて研究計画の見直しを行う。

2年次前期(全8回)

第1~7回:解析結果・実験結果などの評価・考察を継続発展させ、研究進捗報告を通してアドバイスを受け、さらに研究計画を推進する。この間、適宜連携研究室内などでの研究発表を実施すると同時に関連する学会発表を目指して発表準備を行う。

第8回:研究対象技術の農学分野などへの応用に関する アイデア創出およびそれに関するディスカッション等を

新 旧 行う。 察を継続発展させる。 第4回:研究進捗報告を通してアドバイスを受け、次 の段階の研究計画を立案する。 2年次後期(全8回) 第5回~7回:研究目的に至るまでの課題等を整理 第1~6回:解析結果・実験結果などの評価・考察を継 し、必要に応じて研究計画の見直しを行う。 続発展させ、研究進捗報告を通してアドバイスを受け、さ 第8回:研究対象技術の農学分野などへの応用に関す らに研究計画を推進する。この間、適宜連携研究室内など での研究発表を実施すると同時に関連する学会発表を目 るアイデア創出およびそれに関するディスカッション 等を行う。 指して発表準備を行う。 第7~8回:修士論文の作成・修論発表を行う。 2年次後期(全8回) 第1~3回:解析結果・実験結果などの評価・考察を 継続発展させる。 第4~5回:研究進捗報告を通してアドバイスを受 け、さらに研究計画を推進する。この間、適宜連携研究 室内などでの研究発表を実施すると同時に関連する学 会発表を目指して発表準備を行う。 第6~8回:修士論文の作成・修論発表を行う。 (207 ページ) (184 ページ) 作物生理生態学 作物生理生態学 第1週 ガイダンス 光合成・呼吸システムの進化 第1週 ガイダンス 第2・3週 光合成と呼吸の生理的基礎 第2週 光合成と呼吸の生理的基礎(1)生化学・オル ガネラレベル 第4・5週 群落の光合成と作物の物質生産 第3週 光合成と呼吸の生理的基礎(2)器官・個体レ 第6・7週 光合成・呼吸と作物の収量 ベル 第8週 試験と復習 第4週 群落の光合成と作物の物質生産(1)群落構造 と太陽エネルギー利用効率 第5週 群落の光合成と作物の物質生産(2)成長解析 と物質生産 第6週 光合成・呼吸と作物の収量(1)光合成能力の 向上・最適化(植物工場) 第7週 光合成・呼吸と作物の収量(2)シンク/ソース 関係 • 地球温暖化対策 第8週 復習と総合討論 (185 ページ) (208ページ) 植物栄養 • 肥料学 植物栄養・肥料学 第1回:元素の生理作用と植物の栄養診断・栄養特性 第1回:元素の生理作用と植物の栄養診断・栄養特性 第2回:肥料の歴史と肥料の種類 第2回:肥料の歴史と肥料の種類 第3回-第4回:食糧生産と施肥農業(肥料、環境、人間 第3回:食糧生産と施肥農業(肥料と環境) 第4回:食糧生産と施肥農業(人間の健康) の健康) 第5回:近世下野国における魚肥の流通と利用 第5回:近世下野国における魚肥の流通と利用 第6回:肥料の人文社会科学的側面の題材の抽出と調査 第6回-第8回:肥料の人文社会科学的側面の題材の抽出 (演習:調査) と調査(演習) 第7回:肥料の人文社会科学的側面の題材の抽出と調査 (演習:討論)

新	旧	
第8回:肥料の人文社会科学的側面の題材の抽出と調査		
(演習:プレゼンテーション)		
(201ページ)	(224ページ)	
生物環境調節学	生物環境調節学	
(略)	(略)	
<u>8. まとめ</u>	8. 期末試験	
(207 ページ)	(230 ページ)	
Scientific English	Scientific English	
第8週 プレゼンテーション	第 8 週 期末試験	
(209ページ)	(232 ページ)	
農業生産環境保全学特別講義Ⅱ一地産地消実践演習一	農業生産環境保全学特別講義Ⅱ一地産地消実践演習一	
1. 食生活による環境負荷(井元りえ、講義)	1. 食生活と環境 (井元りえ、講義)	
2. 日本の地産地消の歴史(高増雅子,講義)	2. 日本の地産地消の歴史(高増雅子,講義)	
3. 栃木の地産地消 <u>と食文化</u> (大森玲子、講義)	3. 栃木の地産地消 (大森玲子、講義)	
4. 世界の地産地消 <u>と食文化</u> (音羽和紀、講義)	4. 世界の地産地消(音羽和紀、講義)	
5. 地産地消実践演習(1)農場産の食材としての活用		
<u>法</u> (音羽和紀、演習)	6. 地産地消実践演習(2)(音羽和紀、演習)	
6. 地産地消実践演習(2)農場産物を活用した調理の	7. 地産地消実践演習(3)(音羽和紀、演習)	
<u>実践</u> (音羽和紀、演習)	8. 総括(長尾慶和、演習)	
7. 地産地消実践演習(3)農場産物を活用した料理の		
<u>試食・評価</u> (音羽和紀、演習)		
8. 総括(長尾慶和、演習)		
(211 ページ)	(234 ページ)	
農業生産環境保全学特別演習	農業生産環境保全学特別演習	
1年次前期(全8回)	1年次前期(全8回)	
第1~2回:農業生産環境保全学分野の理論的文献の	第1~7回:各研究室ゼミを実施する。	
検討・ディスカッション	第8回:農業生産環境保全学およびそれに関係する工学分	
第3~4回:関連分野(生物資源科学,農業環境工学)	野、それら工農の境界領域 に関する総合的ディ	
の理論的文献の検討・ディスカッション	スカッションを実施する。	
第5~6回:農業生産環境保全学分野の方法論的文献		
の検討・ディスカッション	1年次後期(全8回)	
第7~8回:関連分野(生物資源科学,農業環境工学)	第1~6回:各研究室ゼミを実施する。	
<u> </u>	1	
の方法論的文献の検討・ディスカッション	第7~8回:修士論文研究計画発表会	
<u>の方法論的文献の検討・ディスカッション</u>	第7~8回:修士論文研究計画発表会	
の方法論的文献の検討・ディスカッション 1年次後期(全8回)	第7~8回:修士論文研究計画発表会 2年次前期(全8回)	
1年次後期(全8回)	2年次前期(全8回)	
1年次後期(全8回) 第1~2回:研究対象に関する農業生産環境保全学分	2年次前期(全8回) 第1~6回:各研究室ゼミを実施する。	
1年次後期(全8回) 第1~2回:研究対象に関する農業生産環境保全学分 野の文献の検討・ディスカッション	2年次前期(全8回) 第1~6回:各研究室ゼミを実施する。	
1年次後期(全8回) 第1~2回:研究対象に関する農業生産環境保全学分 野の文献の検討・ディスカッション 第3~4回:研究対象に関する関連分野(生物資源科	2年次前期(全8回) 第1~6回:各研究室ゼミを実施する。 第7~8回:修士論文中間発表会準備	

旧 2年次前期(全8回) 第1~2回:研究計画の発表 第3~4回:研究計画の再検討 第5~6回:収集データ・解析結果に関する農業生産 環境保全学分野の文献の検討・ディスカッション 第7~8回:収集データ・解析結果に関する関連分野 (生物資源科学,農業環境工学)の文献の検討・ディス カッション 2年次後期(全8回) 第1~4回:収集データ・解析の考察に関する農業生 産環境保全学分野の文献(国内,海外)の検討・ディス カッション 第5~6回:収集データ・解析の考察に関する関連分 野(生物資源科学,農業環境工学)の文献の検討・ディ スカッション 第7~8回:収集データ・解析の考察に関する関連分 野(農学一般,工学一般)の文献の検討・ディスカッシ (213 ページ) (237 ページ) 農業生產環境保全学特別研究 農業生産環境保全学特別研究 1年次前期(全8回) 1年次前期(全8回) 第1回:技術者・研究者倫理 第1~4回:技術者・研究者倫理,研究テーマの候補設 定, 先行研究の調査 第2回:研究テーマの候補設定 第3回:農業生産環境保全学分野の先行研究の調査 第5~7回:研究の必要性・背景の理解, 先行研究のま 第4回:関連分野(生物資源科学,農業環境工学)の とめと報告 先行研究の調査 第8回:農業生産環境保全学およびそれに関係する工学 第5回:研究の必要性・背景の理解 分野, それら工農の境界領域 に関する総合的デ 第6回:農業生産環境保全学分野の方法論の検討 ィスカッションを実施する。 第7回:関連分野(生物資源科学,農業環境工学)の 1年次後期(全8回) 方法論の検討 第8回: 先行研究のまとめと報告 第1~4回:研究計画の策定,研究手法の学修(研究進 捗報告を含む) 1年次後期(全8回) 第5~8回:調査・実験の実践,調査結果・実験結果の 第1回:研究計画の作成 解析手法の学修 第2回:農業生産環境保全学分野の研究手法の修得 研究進捗報告及び主指導・副指導教員とのディスカッショ 第3回:関連分野(生物資源科学,農業環境工学)の 研究手法の修得 第4回:研究計画の確定 2年次前期(全15回) 第5~6回:研究の実施(研究進捗報告を含む) 第1~15回:調査・実験の実践,調査結果・実験結果の解 第7回:調査・実験結果の解析方法の修得

第8回:研究進捗報告(主指導・副指導教員とのディスカッションを含む)

2年次前期(全15回)

研究手法の精査,調査・実験結果の精査,解析手法の高度 化

研究進捗報告及び主指導,副指導教員とのディスカッション

新	旧
第1~3回:研究手法の見直し	
第4~9回:研究の実施	2年次後期(全15回)
第10~12回:調査・実験結果の解析方法の見直し	第1~15回:研究の取りまとめ,修士論文の作成
<u>等</u>	
第13~15回:研究進捗報告(主指導・副指導教員	
とのディスカッションを含む)	
2年次後期(全15回)	
第1~6回:研究の実施	
第7~9回:研究の取りまとめ	
第10~15回:修士論文の作成 (218ページ)	(243 ページ)
森林生産利用学	
· 林州·工/生作1/17 于	森林生産利用学
1回目:森林資源の現況(大島)	
2回目:木材産業の動向(大島)	1-2回目:森林資源と木材産業の動向(大島)
3回目:木材の物理(飯塚)	3-4 回目:木材の性質と用途(飯塚)
4回目:木材の化学(飯塚)	5-6 回目:木材の加工と利用(大島)
5回目:木材の加工(大島)	 7 回目:特用林産物の生産と加工(飯塚)
6回目:木材の利用(大島)	 8回目:まとめ(飯塚)
7回目:特用林産物の生産と加工(飯塚)	
8回目:まとめ(飯塚)	
(226ページ)	(251ページ)
樹木木質学	樹木木質学
1回目:木材の基礎的性質	 1~3 回目:木材の基礎的性質および林木の育種、
2回目:林木の育種	4~5 回目:樹木バイオメカニクス、
3回目:材質育種	6~7回目:樹幹木部と放射性セシウムの関係
4回目:樹木の力学的性質	8回目:まとめ
5回目:木材の力学的性質	
<u>6 回目:木材と水分</u>	
7回目:樹幹木部の放射性セシウムの挙動	
8回目:まとめ	
(229ページ)	(254 ページ)
森林生産保全学特別演習	森林生産保全学特別演習
	- F-V-24-Mg (A O F-)
1年次前期(全8回)	1年次前期(全8回)
第1~2回:森林生産保全学分野の文献調査・ディス	# 第1~7回:各研究室ゼミを実施する。 第8回:他プログラムに関するディスカッションを実施
カッション	- 第8世:他ノログラムに関するアイスカッションを美胞 する。
<u>第3~4回:関連分野の文献調査・ディスカッション</u>	<u>/ ~ 0</u>
第5~6回:森林生産保全学分野の分析手法調査・デ	 1年次後期(全8回)
イスカッション 第7、9回、関東八野の八振玉汁理木・ディスカッシ	第1~6回:各研究室ゼミを実施する。
第7~8回:関連分野の分析手法調査・ディスカッシ	第7~8回:修士論文研究計画発表会
<u> </u>	
1年次後期(全8回)	2年次前期(全8回)
- 190M/91 (- V H/	

r l

第1~2回:研究対象に関する森林生産保全学分野の

資料・データ調査・ディスカッション

第3~4回:研究対象に関する関連分野の資料・デー

タ調査・ディスカッション

第5~6回:研究計画の検討 第7~8回:研究計画の策定

2年次前期(全8回)

第1~2回:研究計画の発表 第3~4回:研究計画の再検討

第5~6回:データ収集方法に関する森林生産保全学

分野における検討・ディスカッション

第7~8回:データ収集方法に関する関連分野におけ

る検討・ディスカッション

2年次後期(全8回)

第1~2回:収集データに関する森林生産保全学分野

における検討・ディスカッション

第3~4回:収集データに関する関連分野における検

討・ディスカッション

第5~6回:解析結果に関する森林生産保全学分野に

おける検討・ディスカッション

第7~8回:解析結果に関する関連分野における検

討・ディスカッション

(231 ページ)

森林生産保全学特別研究

1年次前期(全8回)

第1回:技術者·研究者倫理

第2回:研究テーマの候補設定

第3回:森林生産保全学分野の先行研究の調査

第4回:関連分野の先行研究の調査

第5回:研究の必要性・背景の理解

第6回:森林生産保全学分野の方法論の検討

第7回:関連分野の方法論の検討

第8回: 先行研究のまとめと報告

1年次後期(全8回)

第1回:研究計画の作成

第2回:森林生産環境保全学分野の研究手法の修得

第3回:関連分野の研究手法の修得

第4回:研究計画の確定

第5~6回:研究の実施(研究進捗報告を含む)

第7回:調査・実験結果の解析方法の修得

第8回:研究進捗報告(主指導・副指導教員とのディ

スカッションを含む)

第1~6回:各研究室ゼミを実施する。

第7~8回:修士論文中間発表会準備

2年次後期(全8回)

第1~6回:各研究室ゼミを実施する。

第7~8回:修士論文発表会準備

(257 ページ)

森林生産保全学特別研究

1年次前期(全8回)

第1~4回:技術者・研究者倫理,研究テーマの候補設

定, 先行研究の調査

第5~8回:研究の必要性・背景の理解,先行研究のま

とめと報告

1年次後期(全8回)

第1~4回:研究計画の策定,研究手法の学修(研究進

捗報告を含む)

第5~8回:調査・実験の実践,調査結果・実験結果の

解析手法の学修

研究進捗報告及び主指導・副指導教員(第2指導は他プロ

グラム) とのディスカッション

2年次前期(全15回)

第1~15 回 : 調査・実験の実践,調査結果・実験結果の

解析

研究手法の精査、調査・実験結果の精査、解析手法の高度

<u>1L</u>

新	旧
	研究進捗報告及び主指導,副指導教員(第2指導は他プロ
2年次前期(全15回)	グラム) とのディスカッション
第1~3回:研究手法の見直し	
_ 第4~9回:研究の実施	2年次後期(全15回)
第10~12回:調査・実験結果の解析方法の見直し	第1~15回:研究の取りまとめ,修士論文の作成
<u>等</u>	
第13~15回:研究進捗報告(主指導・副指導教員	
とのディスカッションを含む)	
2年次後期(全15回)	
第1~6回:研究の実施	
第7~9回:研究の取りまとめ	
第10~15回:修士論文の作成	

(改善意見) 地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻 (M)

【教育課程等】

13. <学位プログラムの教育体制等が不適切>

地域社会デザイン学のうち、特にコミュニティデザイン学プログラムにおいて、育成する人 材像、養成する能力等を踏まえれば、社会学関係の科目の充実が必要であるため、適切な教 育内容・教育体制に改めること。

(対応)

社会デザイン科学専攻は、現代社会の課題解決のために、社会の変容したコミュニティや社会制度、地域社会を形成するソフトウェア(コミュニティ、社会制度、文化、政策等)やハードウェア(建築、国土保全、環境等)をデザインしていく力を養成することを目的として設けている。 コミュニティはリスク管理、防災など多様な場面においてその役割を高めていることから、コミュニティ、社会制度、政策等のソフトウェアの在り方を教育研究する分野としてコミュニティデザイン学プログラムを配置している。

そして、コミュニティデザイン学プログラムの育成する人材像は、「コミュニティデザイン学の高度な知識・技術を修得して、コミュニティをデザインする能力を有し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献できる人材」であり、「社会システム、地域資源活用、現場での実践等の、コミュニティデザインに必要不可欠な高度かつ学際的な知識と能力」及び、「急速な社会の変容や多様化、複雑化する地域課題に対応するとともに、地域社会をより豊かで持続可能にするために求められるコミュニティデザインを実現する能力」を養成する。

このため、本プログラムでは、コミュニティの現場、特に喫緊の地域課題が集中する福祉の領域において、人々の相互行為を社会学的な視点から深い洞察を伴う形で、根源的な考察を行う「福祉会話分析」を配置しているところである。

さらに、専攻の趣旨に沿って他の学位プログラムで開講されている科目の中で、コミュニティデザイン学プログラムの目的に関連している科目(コミュニティを構成する多様なアクターが共生する社会の可能性を学ぶ「共生社会論」、少子高齢化の中でその持続可能性が現代の最重要課題である農村の未来を、地域社会の構造に関する学問的営為に根ざして分析する「農村社会学」、真に人間的で、豊かなコミュニティの創造のために真摯な検討が必須である人々の「余暇」と「情緒」に社会学的な眼差しを宛てる「遊びと感情の社会学特論」)の社会学分野の科目については、学生向けの「履修案内」と履修計画策定において、研究テーマや学生の関心に応じた履修を推奨するなどの指導を行うこととする。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(57~58ページ)

新	Iβ
(57 ページ)	(46 ページ)
①コミュニティデザイン学プログラム	①地域社会デザイン学(コミュニティデザイン学)プログラ
	<u>A</u>
(中略)	(中略)
	(47ページ)
< <u>カリキュラムマップ・</u> カリキュラムツリー>	<カリキュラムツリー>

(中略)

(58 ページ)

○他学位プログラム専門科目:指導教員との相談・指導 の下で,教育上有益と認める時は,他の学位プログラム (専門科目)から 3 単位まで修了要件の単位として認め る。

なお、専攻の趣旨に沿って他の学位プログラムで開講されている科目の中で、コミュニティデザイン学プログラムの目的に関連している科目(「共生社会論」、「農村社会学」、「遊びと感情の社会学特論」)については、学生向けの「履修案内」と履修計画策定において、研究テーマや学生の関心に応じた履修を推奨するなどの指導を行うこととする。

(以下略)

(中略)

○他学位プログラム科目:地域社会デザイン学(農業・農村経済学)プログラムの「プログラム専門科目」からの履修を認める(修了要件については3単位まで認定)。 (以下略)

【教育課程等】

14. <学位プログラムの養成人材像及び教育方針の説明が不十分>

地域社会デザイン学 (コミュニティデザイン学) プログラム及びグローバル・エリアスタディーズプログラムについて,養成する人材像を明確にするとともに,必要に応じてプログラム共通の授業科目を開講するなど,専門性を担保するための方針について明確にすること。

(対応)

まず、コミュニティデザイン学プログラムとグローバル・エリアスタディーズプログラムにおいて、それぞれのプログラムの目的に対して想定している必要性と課題の違いについて整理した。その後、二つのプログラムがそれぞれの目的に対応して、適切な科目構成になっていることを説明した。

プログラムの共通科目について、「コミュニティデザイン学プログラム」では、既に「境界・学際領域科目」や「基盤科目」を配置していることから、新規の科目は開講していない。「グローバル・エリアスタディーズプログラム」では、本意見を踏まえて、日本及び世界各地で発生している諸問題を包括的に理解し、グローバルな観点から社会をデザインするのに必要な専門的知識の基礎を養成するために、「グローバル・エリアスタディーズ総合講義」(1年次のプログラム必修科目、1単位)を新しく配置した。

これらの内容は、次の通りである。

<専攻の目的・必要性に見られる相違>

社会デザイン科学専攻の目的は、「21 世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を形成するために、地域社会に関するソフトウェア(コミュニティ、社会制度、文化、政策等)やハードウェア(建築、国土保全、環境等)のデザインについて教育研究を推進」することである。この目的の背景にある現代社会の課題を解決するためには、個人間・地域間・国家間の結びつき、社会制度や政策、倫理観や価値観の人格形成、などが深く関わっており、従来の古い枠組みでなく、課題を解決するための新しいつながり・枠組みを創造(デザイン)する力を養成する必要がある(社会デザインの必要性)。

この必要性に即して考えると、コミュニティデザイン学プログラムは社会の新しいつながり・枠組みを、特に個人間・地域間での在り方を課題としている。一方、グローバル・エリアスタディーズプログラムは、新しいつながり・枠組みを、特に地域間・国家間での在り方を課題としている。そこで、前者は、主に身近なコミュニティ・地域を取り巻く諸課題を理解し、課題解決のために新しい個人・地域のつながり・枠組みを構築しなければならない。一方、後者は、日本及び世界各地で発生している諸問題を包括的に理解し、課題解決のために新しい地域・国家のつながり・枠組みを構築しなければならない。

このような違いから、コミュニティデザイン学プログラムでは、育成する人材像を「コミュニティをデザインする高度な知識・技術を修得して、コミュニティをデザインする能力を有し、 持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献できる人材」としている。グローバル・エリアスタディーズプログラムでは、育成する人材像を「日本及び世界各地で発生している諸問題を理解・解決するための高度な知識・技術を修得して、グローバルな観点から社会をデザインする能力を有し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献できる人材」としている。

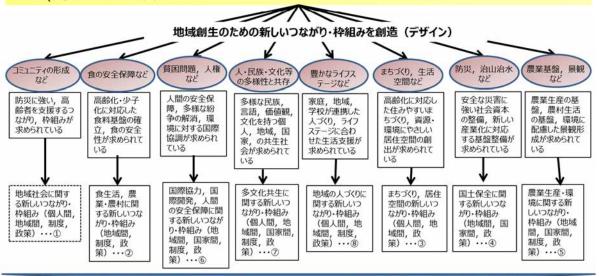
このような違いから、それぞれ異なった名称による学位プログラムとして位置づけている。

社会デザイン科学専攻:8学位プログラムの必要性

宇都宮大学

社会デザイン科学専攻の目的:21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を形成するために,地域社会に関する ソフトウェア(コミュニティ,社会制度,文化,政策等)やハードウェア(建築,国土保全,環境等)のデザインについて教育 研究を推進

課題解決のためには,個人間・地域間・国家間の結びつき,社会制度や政策,倫理観や価値観の人格形成,などが深く関わっており,従来の古い枠組みでなく,課題を解決するための新しいつながり・枠組みを創造(デザイン)する力を養成する必要がある。(社会デザインの必要性)



持続可能な豊かな地域社会の創生に関する多くの分野をカバーしている(専攻の目的を達成できる学位プログラム構成)

次に、それぞれの人材像に対応した教育課程の構成について、専門性の担保の観点から整理した。 <授業科目の体系…専門性の担保:コミュニティデザイン学プログラム>

コミュニティデザイン学プログラムでは、「コミュニティデザイン学の高度な知識・技術を修得して、コミュニティをデザインする能力を有し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献できる人材」を育成するために、ディプロマ・ポリシーを

DP1:地域の社会システム, 資源, 課題等を高度かつ学際的に理解する能力を修得している。

DP2: 急速な社会の変容や多様化,複雑化する地域課題に学際的な視点から向き合い,地域社会をより 豊かにし,持続可能にするために求められるコミュニティデザインを実現する能力を修得している。

DP3:コミュニティにおける様々なテーマに対して、適切な分析アプローチを、深い理解とともに、適用する 能力を修得している。

DP4)コミュニティの多様な主体による現場の実践知を学術的に分析し、現場に還す能力を修得している。

と設定した。

また,教育課程は,「地域創生リテラシー」と「専門科目」(境界・学際領域科目,基盤科目,社会システムデザイン科目,地域資源マネジメント科目,特別演習,特別研究,実践プロジェクト)で構成される。

「地域創生リテラシー」は,学際的思考力と実践力を養成する基盤をなすものであり,その後の専門科

目に繋がり、最終的には DP1~DP4 に関連してくる科目群である。そのなかで、「アカデミックコミュニケーション」は境界・学際領域科目、基盤科目、社会システムデザイン科目から繋がり、異分野との学術交流を通じて実践的に学際的思考力が強化される。その後、特別演習、特別研究、実践プロジェクトに結びついて、集大成として高度な専門性と学際的思考力・実践力を養成するものであり、特に DP1 と DP2 につながる。

「境界・学際領域科目」は、農業・農村経済学プログラムとの連携科目として、地域の現状への理解を深め課題に即した包括的な捉え方の基礎を身に付けるために、「地域社会デザイン学分析展開論:実践を問い、現場に還す」(1年次前期、プログラム必修科目、1単位)を配置した。これは、「アカデミックコミュニケーション」や「特別演習」、「特別研究」、「実践プロジェクト」に結びついて、特に、DP4 との関連が大きい。

「基盤科目」は、課題解決のためにプログラムに共通する重要分野として、行政、住民自治、住環境、生態、社会福祉に関する専門的な知識を修得するための 5 科目を配置した。具体的には、「政策形成と協働」、「コミュニティ政策論」、「住環境・まちづくり論」、「自然共生デザイン論」、「福祉経営論」であり、その後、社会システムデザイン科目や地域資源マネジメント科目に繋がっている。主に、DP1 と DP2 との関連が大きい。

これらの科目を基盤として、コミュニティデザインの高度な専門知識・技術を修得するために、「社会システムデザイン科目」(7科目)と「地域資源マネジメント科目」(7科目)を設けた。

「社会システムデザイン科目」は、地域社会の構造解析や制度・政策の在り方について専門的知識・技術を養成するために配置した。具体的には、「政策分析とガバナンス」(DP2)、「まちをつくる経済評価の技法」(DP3)、「経済政策論」(DP1)、「福祉会話分析」(DP2)、「地域スポーツ行政論」(DP2)、「地域社会教育論」(DP1)、「地域住民の意識・行動の調査法」(DP3)を配置した。

「地域資源マネジメント科目」は、地域資源の活用、コミュニティの形成、専門的で実践的なコミュニケーション能力など、地域社会にとって必要なマネジメントに関する専門的知識・技術を養成するために配置した。具体的には、「生活文化デザイン論」(DP2)、「地域活動の心理学」(DP1)、「デザインと地域」(DP2)、「合奏による参加型デザイン」(DP)、「地域食生活論」(DP2)、「農業・農村の組織マネジメント」(DP2)、「観光地理学研究」(DP2)、を配置した。

以上のように、「地域創生リテラシー」と「専門科目」(境界・学際領域科目、基盤科目、社会システムデザイン科目、地域資源マネジメント科目、特別演習、特別研究、実践プロジェクト)が体系的に連なって、人材養成の目的を果たしている。

<授業科目の体系…専門性の担保:グローバル・エリアスタディーズプログラム>

グローバル・エリアスタディーズプログラムでは、「日本及び世界各地で発生している諸問題を理解・解決するための高度な知識・技術を修得して、グローバルな観点から社会をデザインする能力を有し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献できる人材」を育成するために、ディプロマ・ポリシーを

DP1: 国際開発や国際協力等に関する高度な専門知識・技術を身に付けて、グローバルな諸問題を理解 し解決する能力を修得している。

DP2:世界各地の政治・社会の多様性等に関する高度な教養を身に付けて、課題に対する学際的な思考能力を修得している。

DP3:日本及び世界各国の諸問題・諸課題に対して、グローバルな観点から問題解決を実践するために 具体的な情報収集、調査・分析する能力を修得している。

DP4: グローバルな実務に対応可能な企画・提案能力とコミュニケーション能力を修得している。 と設定した。

また,教育課程は,「地域創生リテラシー」と「専門科目」(境界・学際領域科目,基盤科目,グローバル・スタディーズ科目,エリアスタディーズ科目,特別演習,特別研究,実践プロジェクト)で構成される。

「地域創生リテラシー」は、学際的思考力と実践力を養成する基盤をなすものであり、その後の専門科目に繋がり、最終的には DP1~DP4 に関連してくる科目群である。そのなかで、「アカデミックコミュニケーション」は境界・学際領域科目、基盤科目、グローバル・スタディーズ科目、エリアスタディーズ科目から繋がり、異分野との学術交流を通じて実践的に学際的思考力が強化される。その後、特別演習、特別研究、実践プロジェクトに結びついて、集大成として高度な専門性と学際的思考力・実践力を養成するものであり、特に DP1~DP3 につながる。

「境界・学際領域科目」は、日本及び世界各地で発生している諸問題を包括的に理解し、グローバルな観点から社会をデザインするのに必要な専門的知識の基礎を養成するために、「グローバル・エリアスタディーズ総合講義」(1年次のプログラム必修科目、1単位)を配置した。この科目は、本意見を踏まえて、本プログラムが対象とする課題は多様に複雑化しており、それらに貢献する能力を体系的に修得するための共通基盤として新規に開講した。このことから、この科目はDP1~DP4の全てに関連している。

「基盤科目」は、グローバルな諸問題を普遍的な視座から分析・対応するための基盤を身に付けるために、 貧困、国際協力、環境、人間の安全保障、人権等に関する科目を配置した。具体的には、「貧困問題と 国際協力 I 」(DP1)、「防災と国際協力 I 」(DP2)、「環境問題とガバナンス I 」(DP1)、「国際 NPO 起業 とその実践 I 」(DP3)等、9 科目を配置した。

「グローバル・スタディーズ科目」は、今日世界が直面する貧困・環境問題や人権・安全保障の問題とその解決のための国際協力・開発教育などを理解するための科目を配置した。具体的には、「情報ネットワークと技術 II」(DP3),「人間の安全保障と国連 II」(DP1),「防災と国際協力 II」(DP3),「環境問題とガバナンスII」(DP2)等,9 科目を配置。この科目は、基盤科目の専門性を更に高度化する科目と繋がっている。

「エリアスタディーズ科目」は、世界の様々な問題は多様な地域性を帯びており、その理解は問題理解や解決のために不可欠である。この点に鑑み、多様な地域を理解するための科目を配置した。具体的には、「タイの開発と地域社会 I 、II 」(DP2)、「東アジアの国際政治と歴史 I 、II 」(DP2)、「ラテンアメリカの経済と社会 I 、II 」(DP2)、「中東地域の政治と社会 I 、II 」(DP2)等,18 科目を配置した。

以上のように、「地域創生リテラシー」と「専門科目」(境界・学際領域科目,基盤科目,グローバル・スタディーズ科目,エリアスタディーズ科目,特別演習,特別研究,実践プロジェクト)が体系的に連なって、人材養成の目的を果たしている。

本意見を踏まえ、以上の内容を、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載する。

新

(57 ページ)

①コミュニティデザイン学プログラム

(中略)

<カリキュラムマップ・カリキュラムツリー>

【資料 24 <u>カリキュラムマップ・</u>カリキュラムツリー: 社会デザイン科学専攻 コミュニティデザイン学プログラム】

A 地域創生リテラシー科目(10単位)

研究科の共通科目, <u>55~56</u> 頁「A 地域創生リテラシー 科目(10 単位)」を参照。

B 専門科目(20 単位)

専門科目として,境界・学際領域科目,プログラム専門 科目(基盤科目,社会システムデザイン科目,地域資源マ ネジメント科目)と「特別演習」(4 単位),「特別研究」(6 単位)を開講する。

○境界・学際領域科目(1 単位):地域の現状への理解を深め課題に即した包括的な捉え方の基礎を身に付けるために、「地域社会デザイン学分析展開論:実践を問い、現場に還す」(1単位:必修)を農業・農村経済学プログラムとの連携共通科目として配置する。

○基盤科目(2単位以上):課題解決のためにプログラム に共通する重要分野として,行政,住民自治,住環境,生態,社会福祉に関する専門的な知識を修得する。授業科 目は,「政策形成と協働」,「コミュニティ政策論」,「住環境・まちづくり論」,「自然共生デザイン論」,「福祉経営論」 (各1単位)を配置し,その後,社会システムデザイン科目 や地域資源マネジメント科目に繋がる。

(57 ページ)

○社会システムデザイン科目(2単位以上):地域社会の 構造解析や制度・政策の在り方について専門的知識・技 術を養成する。授業科目は、「政策分析とガバナンス」、 「まちをつくる経済評価の技法」、「経済政策論」、「福祉会 話分析」、「地域スポーツ行政論」、「地域社会教育論」、 (46 ページ)

①地域社会デザイン学(コミュニティデザイン学)プログラ

<u>ム</u>

(中略)

(47 ページ)

<カリキュラムツリー>

【資料 24 カリキュラムツリー:社会デザイン科学専攻 地域社会デザイン学(コミュニティデザイン学)プログラム】

A 地域創生リテラシー科目(8単位)

研究科の共通科目, <u>44~45</u> 頁「A 地域創生リテラシー科目(8単位)」を参照。

B プログラム科目(22 単位)

プログラム科目として、専門科目と「特別演習」(4単位)、「アカデミックコミュニケーション」(2単位)、「特別研究」(6単位)を開講する。

○分析展開科目 (1 単位):地域の現状への理解を深め課題に即した包括的な捉え方の基礎を身に付けるために、「地域社会デザイン学分析展開論:実践を問い、現場に還す」(1単位:必修)を地域社会デザイン学(農業・農村経済学)との連携共通科目として配置する。

(47 ページ)

○社会システムデザイン科目 (3 単位以上):現状への理解を深め地域の課題に即した包括的な捉え方の基礎を身に付ける。授業科目は、「政策形成と協働」、「政策分析とガバナンス」、「まちをつくる経済評価の技法」、「経済政策論」、「地域スポーツ行政論」、「コミュニティ政策論」、「地域スポーツ行政論」、「コミュニティ政策論」、「地

「地域住民の意識・行動の調査法」を配置する(各1単位)。

○地域資源マネジメント科目 (2単位以上):地域資源の活用,コミュニティの形成,専門的で実践的なコミュニケーション能力など,地域社会にとって必要なマネジメントに関する専門的知識・技術を養成する。授業科目は、「生活文化デザイン論」、「地域活動の心理学」、「デザインと地域」、「合奏による参加型デザイン」、「地域食生活論」、「農業・農村の組織マネジメント」、「観光地理学研究」を配置する(各1単位)。

(58 ページ)

○他学位プログラム専門科目:指導教員との相談・指導の下で,教育上有益と認める時は,他の学位プログラム(専門科目)から3単位まで修了要件の単位として認める。

なお、専攻の趣旨に沿って他の学位プログラムで開講されている科目の中で、コミュニティデザイン学プログラムの目的に関連している科目(「共生社会論」、「農村社会学」、「遊びと感情の社会学特論」)については、学生向けの「履修案内」と履修計画策定において、研究テーマや学生の関心に応じた履修を推奨するなどの指導を行うこととする。

(中略)

[削除]

(中略)

(65 ページ)

⑥ グローバル・エリアスタディーズプログラム

(中略)

<カリキュラムマップ・カリキュラムツリー>

(中略)

A 地域創生リテラシー科目(10単位)

域社会教育論」,「福祉経営論」,「地域住民の意識・行動の調査法」を配置する(各1単位)。

○地域資源マネジメント科目(3単位以上):地域社会における実践・資源・つながり・制度政策を解明するのに必要不可欠な学術理論を高度かつ複合的・学際的に理解すると、地域社会における様々なテーマに対して、適切な分析アプローチを適用する"方法応用能力"を養成する。授業科目は、「福祉会話分析」、「地域活動の心理学」、「住環境・まちづくり論」、「デザインと地域」、「合奏による参加型デザイン」、「生活文化デザイン論」、「地域食生活論」、「農業・農村の組織マネジメント」、「自然共生デザイン論」、「観光地理学研究」を配置する(各1単位)。

○他学位プログラム科目:地域社会デザイン学(農業・農村経済学)プログラムの「プログラム専門科目」からの履修を認める(修了要件については3単位まで認定)。

(中略)

(48ページ)

<「アカデミックコミュニケーション」(2 単位)の内容>
39~41 頁, 1)アカデミックコミュニケーション(2 単位)を
参照。参照。

(中略)

(54ページ)

⑥ グローバル・エリアスタディーズプログラム

(中略)

(55ページ)

<カリキュラムツリー>

(中略)

A 地域創生リテラシー科目(8単位)

研究科の共通科目, <u>55~56</u> 頁「A 地域創生リテラシー 科目(10 単位)」を参照。

B <u>専門科目(20</u>単位)

専門科目として、境界・学際領域科目、プログラム専門 科目(基盤科目、グローバル・スタディーズ科目、エリアス タディーズ科目)と「特別演習」(4単位)、「特別研究」(6単位)を開講する。

○境界・学際領域科目(1 単位):日本及び世界各地で発生している諸問題を包括的に理解し、グローバルな観点から社会をデザインするのに必要な専門的知識の基礎を養成する。授業科目は、「グローバル・エリアスタディーズ総合講義」(1 年次必修科目、1 単位)を配置する。この科目は、本プログラムが対象とする課題は多様に複雑化しており、それらに貢献する能力を体系的に修得するための共通基盤として新規に開講した。

○基盤科目: (2 単位以上): グローバルな諸問題を普遍的な視座から分析・対応するための基盤を身に付けるために, 貧困, 国際協力, 環境, 人間の安全保障, 人権等に関する科目を配置した。授業科目は,「貧困問題と国際協力Ⅰ」,「防災と国際協力Ⅰ」,「環境問題とガバナンスⅠ」,「国際 NPO 起業とその実践Ⅰ」など 9 科目を配置した。

○グローバル・スタディーズ科目(2 単位以上):今日世界が直面する貧困・環境問題や人権・安全保障の問題とその解決のための国際協力・開発教育などを理解するための科目を配置する。院生が自身の研究テーマに応じ、必要な分析手法を獲得することを目的に選択して履修する。授業科目は、「貧困問題と国際協力Ⅱ」、「防災と国際協力Ⅱ」、「環境問題とガバナンスⅡ」、「情報ネットワークと技術Ⅱ」、「人間の安全保障と国連Ⅱ」、「国際人権保障と平和構築Ⅱ」、「Globalization and Project Management Ⅲ」、「グローバル教育と開発教育Ⅱ」、「国際 NPO 起業とその実践Ⅱ」を配置する(各1単位)。この科目は、基盤科目の専門性を更に高度化する科目と繋がっている。

○エリアスタディーズ科目(4 単位以上):世界の様々な問題は多様な地域性を帯びており、その理解は問題理解や解決のために不可欠である。この点に鑑み、多様な地域

研究科の共通科目, <u>44~45</u>頁「A 地域創生リテラシー科目(8単位)」を参照。

B プログラム科目(22 単位)

プログラム科目として、<u>専門科目</u>と「特別演習」(4単位)、「アカデミックコミュニケーション」(2単位)、「特別研究」(6単位)を開講する。

○グローバル・スタディーズ科目(2 単位以上):国家間及び国家-社会関係を重層的かつグローバルに分析するための理論的枠組みを、国際政治学、国際経済学等の知見を踏まえた科目を配置する。院生が自身の研究テーマに応じ、必要な分析手法を獲得することを目的に選択して履修する。授業科目は、「貧困問題と国際協力」、II」、「防災と国際協力」、II」、「環境問題とガバナンス」、II」、「情報ネットワークと技術」、II」、「人間の安全保障と国連」、II」、「国際人権保障と平和構築」、II」、「Globalization and Project Management」、II」、「グローバル教育と開発教育」、II」、「国際 NPO 起業とその実践」、II」を配置する(各1単位)。

○エリアスタディーズ科目(2単位以上):研究対象地域に 見られる諸問題を,当該地域の固有性(産業構造,歴史 的経緯,民族配置,域内政治)に基づいて理解する能力 を理解する能力を養う。院生は自身の研究対象地域に近い地域を選択して履修する。授業科目は、「タイの開発と地域社会 I 、II 」、「東アジアの国際政治と歴史 I 、II 」、「東アジアの歴史と文化 I 、II 」、「日本の自然と地域生活 I 、II 」、「アメリカの経済と金融 I 、II 」、「ラテンアメリカの経済と社会 I 、II 」、「中東地域の政治と社会 I 、II 」、「東アフリカの社会開発と文化 I 、II 」を配置する(各 1 単位)。

○実際に研究対象地域に入って調査・研究を行うための 科目として、「特別臨地研究 I 、II」を設定している(各2 単位)。

(中略)

[削除]

(以下略)

を養う。院生は自身の研究対象地域に近い地域を選択して履修する。授業科目は、「タイの開発と地域社会 I, II」、「東アジアの国際政治と歴史 I,II」、「東アジアの歴史と文化 I,II」、「日本の自然と地域生活 I,II」、「アメリカの経済と金融 I,II」、「ラテンアメリカの経済と社会 I, II」、「中東地域の政治と社会 I, II」、「東アフリカの社会 開発と文化 I,II」を配置する(各 1 単位)。

○実際に研究対象地域に入って調査・研究を行うための 科目として、「特別臨地研究 I 、II 」を設定している(各2 単位)。

(中略)

(56 ページ)

<「アカデミックコミュニケーション」(2 単位)の内容>

39~41 頁, 1)アカデミックコミュニケーション(2 単位)を

参照。

(以下略)

【教育課程等】

15. < PBL 等の教育手法を用いた科目の充実>

「実践力によって裏付けられた課題解決能力を備えた専門家の育成」を設置の趣旨・必要性に掲げるならば、PBL (Project Based - Learning) 等の教育手法を用いた科目の充実が必要であると考えるが、対応方針について説明すること。

(対応)

「実践力によって裏付けられた課題解決能力を備えた専門家の育成」に関わって、「実践力とは何か」、「実践力を養成する教育方法について」、「具体的な科目の授業内容」、「実施体制」を見直した。その後、「社会デザイン科学専攻の実践的教育」について説明を付加した。その内容は、次の通りである。

<実践力養成の基本的考え方>

本研究科の理念は、「21 世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、社会デザインとイノベーションの創造を支える高度な人材を育成するとともに、特長的で強みのある研究を推進する」であり、育成する人材像は「持続可能な豊かな地域社会を創生するために、社会デザインやイノベーションに関する高度な専門知識・技術を身に付けて、学際的思考力と実践力を備えて主体的に行動できる高度専門職業人を育成する。」である。このように、研究科の目標を達成するためには実践力の養成が必要不可欠である。

ここで、「実践力」とは、次の要素を含んだものとして捉えている。

- a 実態に即した課題を抽出し、解決のためのシナリオを描くことができる。
- b 専門知識を現場に応用し、現場に即して柔軟に専門性を活かすことができる。
- c 課題に対して多面的な思考ができる。
- d 専門技術を活用して、現状・課題に対する情報収集・調査・分析ができる。
- e 高度なコミュニケーション能力を有している(年代間, 専門間, 人種間等)。
- f主体的な行動力とチームとしての協働性を併せて持っている。

これらの要素の養成は全ての学位プログラムに共通する課題であり、特に、「専門科目」の特別演習、特別研究、実践プロジェクトは高度な専門知識・技術を養成するだけでなく、実践力の全ての要素を養成することに結びついている。

このように、専門科目で実践力を養成するだけでなく、このことは研究科で共通の重要課題と位置付けて、「地域創生リテラシー」に実践力を養成する科目を配置することにした。

<「地域創生リテラシー」における実践力の養成>

実践力の養成は、PBL(Project Based-Learning)、事例研究、調査・分析、インターンシップ等、の教育方法を効果的に用いている。

「地域創生リテラシー」では、地域課題解決のために実践的な応用力、行動力とコミュニケーション能力の養成を目的として、「実践インターンシップ」、「実践フィールドワーク」、「創成工学プロジェクト演習」、「国際インターンシップ」、「臨地研究」、「International Political Economy」、「Global Management」、

「Globalization and Society」の8科目を配置した。

「実践インターンシップ」は、専門分野に関連した企業・団体等でのインターンシップを通じて実践力を養成する(主な要素 a,f)。「実践フィールドワーク」は、課題に対応した実際のフィールドでの調査・分析・発表を行う(a,d,f)。「創成工学プロジェクト演習」は PBL の科目として、商品開発のチームごとに、企画書作成、試作・予備実験、モックアップの制作等の一連の活動を行う。また、企業での商品開発等の経験者を SA(シニア・テクニカル・アドバイザー)として実務者からの助言を行う(c,e,f)。「国際インターンシップ」は、海外の企業等でインターンシップを行う(c,e)。「臨地研究」は、実地調査(データ収集・分析)、報告書の作成・発表を行う(b,d,e)。「International Political Economy」、「Global Management」、「Globalization and Society」は、国際社会・情勢の動向等を題材として英語によるグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行う(c,e)。

この外に、高度な学際的思考力と実践力を養成することを目的に、「アカデミックコミュニケーション」を配置した。この科目は、研究室単位の閉じた中での研究活動ではなく、広い視点から専門知識への理解度を深めるとともに、異なる分野の研究者・教員・実務家及び学生との意見交換・議論を設けて、より高度な学際的な思考力と実践力を養成する。そのために、研究室単位ではなく参加と発表は自由に行うことができるオープンゼミを行う。オープンゼミでは、学生は自分の研究活動等を通じた成果(仮説の提示や中間纏めなどを含む)を発表又は研究課題に即した国際的動向や現場に関連する話題提供を行う。それらをベースにして、意見交換・質疑応答等を行い、学生はレポートを作成・提出する。また、学生は少なくとも1回以上はオープンゼミで発表しなければならない。このように、多様な年代で構成される異分野の研究者(学生、教員、実務家等)との実践的な討議を通じて、学際的思考力とコミュニケーション能力は高度化される(b,c,e)。

以上のように、研究科の共通課題として PBL 以外の方法も用いながら、実践力の養成を図っている。

<アクティブ・ラーニングの活用とFD>

上記のような実践科目以外の通常の講義形式の授業科目においても、学生とのディスカッションやグループワークなどアクティブ・ラーニングの要素を活用して、単なる理論・知識の詰め込みではなく、実践的な思考力の向上を図る。そして、これらの実践的な教育方法を一層充実するために、全学や専攻及びプログラムでの FD 活動を計画的に実施する。

<社会デザイン科学専攻の実践的教育:地域創生リテラシーから特別研究へ>

本学は、地域の変革をリードする「知の拠点」を目指しており、本研究科の理念は「21 世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、社会デザインとイノベーションの創造を支える高度な人材を育成するとともに、特長的で強みのある研究を推進する。」である。本社会デザイン科学専攻では"社会デザイン"に関して、21 世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために、地域社会に関するソフトウェア(コミュニティ、社会制度、文化、政策等)やハードウェア(建築、国土保全、環境等)のデザインについて教育研究を推進する。そこで、既存の4研究科から社会デザインのソフト面やハード面に関する人文科学、社会科学、国際学、工学(建築学・土木工学の分野)、農学(農業経済学、農業土木学の分野)、教育学の分野を再編・統合して「社会デザイン科学専攻」を設ける。

本学は、学士課程において、「地域デザイン科学部」の設置や COC・COC+事業等を契機として実践

的教育を一層強化して地域人材の育成を進めているが、地域課題は複雑化・高度化しており学士課程 を基盤としながら、より高度な専門性と俯瞰力及び実践力によって裏付けられた課題解決能力を備えた 専門家の育成が必要である。

教育課程における実践的科目の配置は、3 つのステージに区分できる。一つは、「地域創生リテラシー」に実践力を養成する共通科目(研究科共通科目)を配置した。二つ目は、専門分野の「専門科目」に事例研究、調査分析、実験・解析手法の修得と応用、PBL (Project Based-Learning)、成果発表とディスカッション等を用いる実践的な専門科目を配置した。三つ目に、高度な専門知識・技術を修得するだけでなく、高度な研究力と実践力を養成し学位の質を保証するための科目として、「特別演習」、「特別研究」、「実践プロジェクト」(コースワークとして開講)を配置した。

具体的な授業科目の構成は、次のとおりである。

Stage1 Stage2 Stage3

実践力の養成,研究科共通 高度な専門知識・実践力 高度な専門実践力・研究力

	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
地域創生リテラシー	プログラム専門科目	プログラム専門科目
「実践インターンシップ」(①~ ®),「実践フィールドワーク」 (①~⑯),「創成工学プロジェクト演習」(①~⑯),「国際インターンシップ」(①~⑯),「臨地研究」(①~⑯), 「アカデミックコミュニケーション」(①~⑯)	く社会デザイン科学専攻> 「地域社会デザイン学分析展開論:実践を問い、現場に還す」(①,②)、「住環境・まちづくり論」(①)、「まちをつくる経済評価の技法」(①)、「デザインと地域」(①)、「農村地理学」(②)、「地域デザイン工学プロジェクト」(③~⑤)、「地域デザイン工学インターンシップ」(③~⑤)、「都市解析特論 B」、「建築設計演習 I、II」(③)、「防災マネジメント特論」(④)、「海外プロジェクト特論」(④)、「応用田園生態工学 I、II」(⑤)、「地域マネジメント B」(⑥)、「防災と国際協力 II」(⑥)、「国際 NPO 起業とその実践 I、II」(⑥)、「特別臨地演習 I、II」(⑥)、「性と人権論 II」(⑦)、「地域環境システム論」(⑧)など	「特別演習」(①~⑯),「特別研究」(①~⑯),「実践プロジェクト」 (①,②,⑥,⑦,⑧)

※カッコ内の数値は、学位プログラムを表している。①コミュニティデザイン学、②農業・農村経済学、③ 建築学、④土木工学、⑤農業土木学、⑥グローバル・エリアスタディーズ、⑦多文化共生学、⑧地域人 間発達支援学、⑨光工学、⑩分子農学、⑪物質環境化学、⑫農芸化学、⑬機械知能工学、⑭情報電 気電子システム工学、⑤農業生産環境保全学、⑯森林生産保全学

本意見を踏まえ、以上の内容を、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (35,40ページ)

新	П
(35 ページ)	(32 ページ)
項目IV 教育課程の編成の考え方及び特色	項目IV 教育課程の編成の考え方及び特色
(中略)	(中略)

- 教育課程編成の基本的な考え方 (中略)
- (1)研究科の理念と「学位プログラム」の基本構成(中略)

(40 ページ)

(3) 実践力養成の基本的考え方

本研究科の理念は、「21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、社会デザインとイノベーションの創造を支える高度な人材を育成するとともに、特長的で強みのある研究を推進する」であり、育成する人材像は「持続可能な豊かな地域社会を創生するために、社会デザインやイノベーションに関する高度な専門知識・技術を身に付けて、学際的思考力と実践力を備えて主体的に行動できる高度専門職業人を育成する。」である。このように、研究科の目標を達成するためには実践力の養成が必要不可欠である。

- ここで、「実践力」とは、次の要素を含んだものとして捉えている。
- a 実態に即した課題を抽出し、解決のためのシナリオを描 くことができる。
- b 専門知識を現場に応用し, 現場に即して柔軟に専門性 を活かすことができる。
- c 課題に対して多面的な思考ができる。
- d 専門技術を活用して,現状・課題に対する情報収集・調査・分析ができる。
- e 高度なコミュニケーション能力を有している(年代間, 専門間, 人種間等)。
- <u>f</u> 主体的な行動力とチームとしての協働性を併せて持っている。
- これらの要素の養成は全ての学位プログラムに共通する 課題であり、特に、「専門科目」の特別演習、特別研究、 実践プロジェクトは高度な専門知識・技術を養成するだけ でなく、実践力の全ての要素を養成することに結びついて いる。

このように、専門科目で実践力を養成するだけでなく、このことは研究科で共通の重要課題と位置付けて、「地域創生リテラシー」に実践力を養成する科目を配置することに

1. 教育課程編成の基本的な考え方

した。

<「地域創生リテラシー」における実践力の養成>

実践力の養成は、PBL(Project Based-Learning)、事例研究、調査・分析、インターンシップ等、の教育方法を効果的に用いている。

「地域創生リテラシー」では、地域課題解決のために実践的な応用力、行動力とコミュニケーション能力の養成を目的として、「実践インターンシップ」、「実践フィールドワーク」、「創成工学プロジェクト演習」、「国際インターンシップ」、「臨地研究」、「International Political Economy」、「Global Management」、「Globalization and Society」の8科目を配置した。

「実践インターンシップ」は,専門分野に関連した企業・ 団体等でのインターンシップを通じて実践力を養成する (主な要素 a,f)。「実践フィールドワーク」は、課題に対応し た実際のフィールドでの調査・分析・発表を行う(a,d,f)。 「創成工学プロジェクト演習」は PBL の科目として, 商品開 発のチームごとに,企画書作成,試作・予備実験,モック アップの制作等の一連の活動を行う。また,企業での商品 開発等の経験者を SA(シニア・テクニカル・アドバイザー) として実務者からの助言を行う(c,e,f)。「国際インターンシ ップ」は,海外の企業等でインターンシップを行う(c,e)。 「臨地研究」は,実地調査(データ収集・分析),報告書の 作成・発表を行う(b,d,e)。「International Political Economy J, 「Global Management J, 「Globalization and Society」は、国際社会・情勢の動向等を題材として英語に よるグループワーク,ディスカッション,プレゼンテーション を行う(c,e)。

この外に、高度な学際的思考力と実践力を養成することを目的に、「アカデミックコミュニケーション」を配置した。この科目は、研究室単位の閉じた中での研究活動ではなく、広い視点から専門知識への理解度を深めるとともに、異なる分野の研究者・教員・実務家及び学生との意見交換・議論を設けて、より高度な学際的な思考力と実践力を養成する。そのために、研究室単位ではなく参加と発表は自由に行うことができるオープンゼミを行う。オープンゼミでは、学生は自分の研究活動等を通じた成果(仮説の提

示や中間纏めなどを含む)を発表又は研究課題に即した 国際的動向や現場に関連する話題提供を行う。それらを ベースにして,意見交換・質疑応答等を行い,学生はレポ ートを作成・提出する。また,学生は少なくとも 1 回以上は オープンゼミで発表しなければならない。このように、多様 な年代で構成される異分野の研究者(学生,教員,実務 家等)との実践的な討議を通じて、学際的思考力とコミュ ニケーション能力は高度化される(b,c,e)。

以上のように、研究科の共通課題として PBL 以外の方 法も用いながら、実践力の養成を図っている。

(以下略)

(改善意見) 地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻 (M)

【教育課程等】

16. <学位の分野に関する説明が不十分>

これまでの「教育学・保育学関係」の教育実績等を明確にしながら、学位の分野として「教育学・保育学関係」を含めていることも踏まえ、その継続性・当専攻に「教育学・保育学関係」を含むことの妥当性について説明すること。また、ディプロマ・ポリシーを踏まえたカリキュラム・ポリシーになっていることを具体的な授業科目を示しながら明確にすること。

(対応)

「教育学・保育学関係」の教育実績を明示しながら、社会デザイン科学専攻にこの分野を含めることの理由(位置付け)を追記した。更に、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関連と具体的な授業科目の構成を追記した。その内容は次の通りである。

<「教育学・保育学関係」の教育実績と社会デザイン科学専攻における地域人間発達支援学プログラムの位置づけ>

教育学部では、平成 11 年度より生涯教育課程(地域社会教育コース・スポーツ健康コース)と環境教育課程(環境教育コース)を設置し、学校教育をサポートする地域研究・教育に取り組んできた。その後、これら両課程を統合して総合人間形成課程を開設し、教育学部の幅広い授業科目を活かして、カリキュラムを自己設計し、柔軟な履修を通して課題発見解決能力を身に付けて、幅広く地域社会で活躍する人材を育成してきた。その結果、多くの教員を輩出するだけでなく、国家公務員・地方公務員、まちづくり関連企業、教材メーカーをはじめとする教育産業、スポーツ関連企業、デザイン系企業など多種多様な民間企業に人材を供給することを通じて地域社会の発展を支えてきた。

一方,教育学研究科では、学校教育専攻(修士課程)と専門職学位課程(教職大学院)を設け、高度な教員養成に焦点化して研究教育を行ってきた。このうち、学校教育専攻においては学校教育に資するカリキュラム開発、各教科における授業開発等を主題としながらも、人として生涯を豊かに生きることを追求し、幼児教育から高齢期を見通したインクルーシブ教育、シティズンシップ教育、環境教育(ESD)、福祉教育、消費者教育等の教育研究を行ってきた。

社会デザイン科学専攻は、地域社会のソフトウェア(コミュニティ、社会制度、文化、政策等)のデザインを趣旨に掲げており、「社会デザイン」については、現代社会の課題を解決するために、個人間・地域間・国家間の結びつき、社会制度や政策、倫理観や価値観の人格形成、などが深く関わっており、従来の古い枠組みでなく、課題を解決するための新しいつながり・枠組みを創造(デザイン)する力を養成することが求められている(社会デザインの必要性)。この必要性に対して、教育学部・教育学研究科が行ってきた、人として生涯を豊かに生きることを追求し、幼児教育から高齢期を見通したインクルーシブ教育、シティズンシップ教育、環境教育(ESD)、福祉教育、消費者教育等の資源・実績を活かすことができる。そこで、本研究科は社会デザイン科学専攻に地域人間発達支援学プログラムを設けることにした。「地域人間発達支援学プログラム」は、地域の人づくり(個人間、人格形成)に関連して、幼児から高齢者までのライフステージ(人生100年時代)をより豊かに生きていくことを実現するために、地域が一体となって人と人、人と社会のデザインの創造を課題としている。そのためには、人間の発達と発達環境、多様な社会問題、

心と身体の健康,地域における音楽・美術等の創作活動等,について理論と実証的研究を積み重ねてきた教育学の視点が必要である。

このことから、社会デザイン科学専攻(地域人間発達支援プログラム)において、「教育学・保育学関係」を学位の分野に含めた。

<ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関連と科目配置について>

本学位プログラムにおいて、ディプロマ・ポリシー(DP)を実現するためのカリキュラム。ポリシー(CP)と CPに対応した科目構成について整理した。

まず、「地域人間発達支援学プログラム」の育成する人材像は、「人間発達支援学の高度な知識・技術を修得して、人間の思考、生活、健康等の観点から、「人・ヒト」の「心とからだ」に関する社会システムをデザインする能力を有し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献できる人材」である。これを実現するために、DPとCPをそれぞれ次の通り定めている。

地域人間発達支援学プログラムの DP と CP の関係性

ディプロマ・ポリシー (DP) カリキュラム・ポリシー (CP) DP1 人間発達支援学に関する高度な専門知 CP1 人間発達支援の専門家として必要な研 識・技術を身に付けて、社会的課題を理解 究・実践倫理,分野横断的に共通する探求 し解決する能力を修得 課題やリテラシーを理解し、基本となるス キルを身に付けるための必修科目を配置。 DP2 多様な地域や家庭で育つ子どもや青少 年の発達・成長を支援するのに必要な、学 CP2 (イ) 人間の内面的諸相とその発達・ 際的な思考力や課題の分析能力を修得 成長及び(ロ)地域社会における課題との 関連を学ぶための基盤科目を配置 DP3 学校や地域の教育・生活・環境・医療・ 芸術等の関係機関や団体と連携し, 多様な CP3 各ライフステージにおける包摂的で多 学びを支援する環境創造に必要な実践力や 様な学びの必要性を理解し、地域社会での 協働力を修得 実践スキルを身につけるための応用科目 を配置 DP4 地域の人間発達支援の実践者として求 められる高度なリーダーシップやコミュニ ▼CP4 境界領域との学際的思考力やコミュニ ケーション能力を修得 ケーション力を身に付けるため,領域を越 えた主指導・副指導体制で研究を行う演習

● DP1 → CP1 を実現する科目:

研究科共通必修科目「地域創生リテラシー」(地域創生のための社会デザイン&イノベーション,現代社会を見通す:生命と感性の科学,グローカルな視座を養う)を基盤としながら、地域人間

科目を配置

発達に関する学際的な思考力を養成するために、『境界・学際領域科目』として「地域人間発達支援の実際と課題」(プログラム必修科目)を配置した。

● DP2 → CP2 を実現する科目:

基盤科目として, (イ)に関連する「人間発達支援方法論」「生涯発達支援論」「共に生きるかたちの心理学特講」「社会的思考支援論」「ヘルスプロモーション特論」, (ロ)に関連する「生活環境創造支援論」「地域アートマネジメント(美術)」「地域アートマネジメント(音楽)」の8科目を配置した。

● DP3 → CP3 を実現する科目:

基盤科目をベースにした発展科目として,人間発達に関する人間の思考,生活,健康・表現・コミュニケーション,環境の分野に関して,高度な専門知識・技術を養成する目的で『応用科目』を配置した。具体的には,「認知心理的支援論」,「遊びと感情の社会学特論」,「地域環境システム論」,「衣環境学特論」,「生活経営支援論」,「消費者教育支援論」,「健康管理支援論」,「身体科学特論」,「運動発達特論」,「身体運動学演習」,「スポーツ指導支援論」,「生涯身体発達支援論」,「情報コミュニケーション演習」「造形表現支援演習」「サウンド・コラボレーション」など23科目を配置した。

● DP4 → CP4 を実現する科目:

CP1~3 に対応した高度な専門性と実践力を基盤としながら,集大成として,地域人間発達支援学に関する高度な専門実践力・研究力を養成するために,「地域人間発達支援学特別演習」,「地域人間発達支援学特別研究」及び「地域人間発達支援学実践プロジェクト」(コースワークに対応した科目)の3科目を配置した。

以上のように、教育学部・教育学研究科の教育内容を活かしながら、「社会デザイン科学専攻」の目的の一つである"地域の人づくり"に関して「地域人間発達支援学プログラム」が役割を担っている。

(改善意見) 地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻 (M)

【教育課程等】

17. <学位プログラムにおける教育内容の充実>

多文化共生学プログラム及び地域人間発達支援学プログラムの、養成する人材像を踏まえれば、ESD (Education for Sustainable Development) や、持続可能な開発目標 (SDGs) の趣旨を含めた授業科目の開設も必要であると考えるため、その対応方針について説明すること。

(対応)

研究科の共通科目で SDGsに関連した内容の科目を配置していること,次に,多文化共生プログラムと地域人間発達支援学プログラムの養成する人材像に関連して配置している科目において,ESD や SDGs に関連している科目を整理した。更に,本意見を踏まえて,学生向けの「履修案内」と履修計画策定において,これらの科目の目的・授業内容等を十分に説明して,研究テーマや学生の関心に応じた履修を推奨する指導を行うこととする。その内容は,次の通りである。

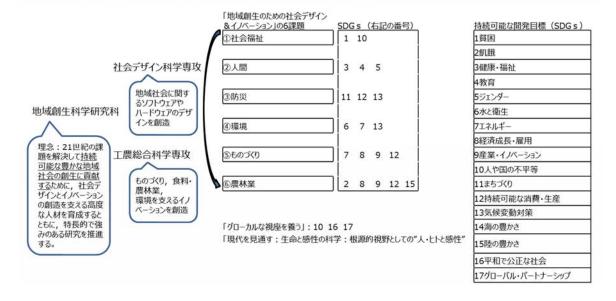
<研究科共通科目における SDGs 関連科目について>

研究科の理念は、「21 世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、社会デザインとイノベーションの創造を支える高度な人材を育成するとともに、特長的で強みのある研究を推進する」であり、そのために育成する人材像は、「持続可能な豊かな地域社会を創生するために、社会デザインやイノベーションに関する高度な専門知識・技術を身に付けて、学際的思考力と実践力を備えて主体的に行動できる高度専門職業人を育成する。」である。このように、持続可能な地域社会の創生が課題であり、SDGsに関連する授業科目も重要であると位置づけている。このことに関連して、研究科共通の「地域創生リテラシー」の「地域創生のための社会デザイン&イノベーション」(必修科目:2 単位)の授業内容として、①社会福祉、②人間、③防災、④環境、⑤ものづくり、⑥農林業をキーワードとする6つの課題を設定した。この課題の設定にあたっては、本学の教育資源(地域デザイン科学、国際学、教育学、工学、農学の5分野)を前提としながら、2015年の国連サミットで持続可能な開発目標(SDGs)として具体的にまとめられた17の目標を念頭にそれらの多くをカバーするものとして上記の課題に設定した。なお、下図のSDGs項目にも示したSDGsの"16平和で公正な社会"、"17グローバルパートナーシップ"については、地域創生リテラシーの「グローカルな視座を養う」や学位プログラム(グローバル・エリアスタディーズ、多文化共生学)で関連する授業科目が配置されている。

このように、研究科の共通科目の授業科目に SDGs の内容が含まれている。



「地域創生のための社会デザイン&イノベーション」で取り上げる課題として、①社会福祉、②人間、③防災、④環境、⑤ものづくり、⑥農林業をキーワードとする6つの課題を設定した。この課題の設定にあたっては、本学の教育資源(地域デザイン科学、国際学、教育学、工学、農学の5分野)を前提としながら、2015年の国連サミットで持続可能な開発目標(SDGs)として具体的にまとめられた17の目標を念頭にそれらの多くをカバーするものとして上記の課題に設定した。なお、SDGsの"16平和で公正な社会"、"17グローバルバートナーシップ"については、地域創生リテラシーの「グローカルな視座を養う」や学位プログラム(グローバル・エリアスタディーズ、多文化共生学)で関連する授業科目が配置されている。これらの課題に対するより専門的分野からの教育研究は、更に、それぞれの専攻の学位プログラムの専門科目によって深まり、それらの総体は本研究科の目標である"持続可能な豊かな地域社会の創生"に貢献することに集約される。



<多文化共生学プログラムにおける SDGs 科目について>

「多文化共生学プログラム」の育成する人材像は、「多文化共生学に関する高度な知識・技術を修得して、文化・言語・思想・宗教・価値観・立場の異なる人々が共に生きる多文化共生社会をデザインする能力を有し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献できる人材を育成する。」である。このことから、共生社会、ジェンダー、人権等に関する科目として、「共生社会論」(プログラムの必修科目)、「性と人権論 I、II」、「人権と法 I、II」、「ジェンダーとアイデンティティ I、II」、「シティズンシップ教育 I、II」を配置している。これらの科目は、SDGsの目標 5"ジェンダー"や目標 16"平和で公正な社会"(平和、安定、人権、そして法の支配に基づく効果的なガバナンス)に関連している。

なお、本意見を踏まえて、専攻の趣旨に沿って他の学位プログラムで開講されている科目の中で、多文化共生学プログラムの目的に関連している科目(「貧困問題と国際協力 I」、「貧困問題と国際協力 I」、「グローバル教育と開発教育 I」、「グローバル教育と開発教育 I」)については、学生向けの「履修案内」と履修計画策定において、研究テーマや学生の関心に応じた履修を推奨するなどの指導を行うこととする。科目選定の理由は次のとおりである。

「貧困問題と国際協力Ⅰ」,「貧困問題と国際協力Ⅱ」

(理由):SDGs において,持続可能な開発を実現するには「貧困の解消」が欠かせないと謳っていることから,貧困問題の視点から持続的な地域社会の知識を修得できるため。

「グローバル教育と開発教育 I」,「グローバル教育と開発教育 II」

(理由):SDGsにおいて教育は重要なウエイトを占めており、グローバル教育や開発教育の現状と課題等を通して、持続可能な社会の形成に向けた環境教育について知識を修得できるため。

<地域人間発達支援学プログラムの必要性と育成する人材像・養成する能力>

「地域人間発達支援学プログラム」の育成する人材像は、「人間発達支援学の高度な知識・技術を修得して、人間の思考、生活、健康等の観点から、「人・ヒト」の「心とからだ」に関する社会システムをデザインする能力を有し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献できる人材」である。このことから、人間発達に関連して心と体の健康、環境等の科目として、「地域環境システム論」、「生活環境創造支援論」、「健康管理支援論」、「ヘルスプロモーション特論」を配置している。これらの科目は、SDGsの目標 11"まちづくり"や目標 12"持続可能な消費・生産"、目標 3"健康・福祉"に関連している。

なお、本意見を踏まえて、専攻の趣旨に沿って他の学位プログラムで開講されている科目の中で、地域人間発達支援学プログラムの目的に関連している科目(「貧困問題と国際協力 I」、「賃困問題と国際協力 I」、「環境問題とガバナンス I」、「環境問題とガバナンス I」、「環境問題とガバナンス I」、「環境問題とガバナンス I」、「最後計画策定において、研究テーマや学生の関心に応じた履修を推奨するなどの指導を行うこととする。科目選定の理由は次のとおりである。

「貧困問題と国際協力 I」、「貧困問題と国際協力 II」

(理由):SDGs において,持続可能な開発を実現するには「貧困の解消」が欠かせないと謳っていることから,貧困問題の視点から持続的な地域社会の知識を修得できるため。

「環境問題とガバナンスⅠ」、「環境問題とガバナンスⅡ」

(理由):環境問題に対するアプローチは「政治学」との関連が深いので、持続可能な発展に向けたガバナンスの在り方について知識を修得できるため。

本意見を踏まえ,以上の内容を,「設置の趣旨等を記載した書類」に記載する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(56,67,68,69,70ページ)

新	III
(56 ページ)	(46 ページ)
2)学位プログラムのカリキュラム・ポリシーとカリキュラムツリ	2)学位プログラムのカリキュラム・ポリシーとカリキュラムツリ
<u> </u>	_
(中略)	(中略)
(67 ページ)	(56 ページ)
⑦ 多文化共生学プログラム	⑦ 多文化共生学プログラム
(中略)	(中略)
(68 ページ)	
< <u>カリキュラムマップ・</u> カリキュラムツリー>	<カリキュラムツリー>
【資料 24 <u>カリキュラムマップ・</u> カリキュラムツリー:社会デザ	【資料 24 カリキュラムツリー:社会デザイン科学専攻 多
イン科学専攻 多文化共生学プログラム】	文化共生学プログラム】
A 地域創生リテラシー科目(<u>10</u> 単位)	A 地域創生リテラシー科目(<u>8</u> 単位)
研究科の共通科目, <u>55~56</u> 頁「A 地域創生リテラシー	研究科の共通科目, <u>44~45</u> 頁「A 地域創生リテラシー

科目(10単位)」を参照。

B 専門科目(20 単位)

専門科目として, <u>境界・学際領域科目, プログラム専門</u> 科目(基盤科目, 応用科目)と「特別演習」(4 単位), 「特別研究」(6 単位)を開講する。

○境界·学際領域科目(2単位)

国内外における文化的・社会的多様性(ジェンダーと社会的格差,性的マイノリティーと共生社会など)は多文化共生に共通する重要な内容であることから,「共生社会論」(2単位:必修)を配置する。

○基盤科目(2単位以上)

多文化共生にとって、言語、感情コミュニケーション、日本表象文化、国際的な人の移動に関する専門知識は本プログラムの基盤となることから、「現代英語研究 I」、「感情コミュニケーションと社会的共生 I」、「日本表象文化研究 I」、「グローバル化と国際的な人の移動 I」、「日本語論述表現法 I」、「多文化教育研究 I」の計 6 科目を配置する(各1単位)。

○応用科目(4単位以上)

 科目(8単位) |を参照。

B プログラム科目(22 単位)

プログラム科目として、<u>専門科目</u>と「特別演習」(4単位)、「アカデミックコミュニケーション」(2単位)、「特別研究」(6単位)を開講する。

○基盤専門科目(4単位)

多文化共生に関して共通する基礎理論の理解を深めるために、「共生社会論」(2単位:必修)を配置する。更に、文化や言語に関する専門知識・技術の基盤を養成するために、選択必修科目(2単位履修)を設ける。授業科目は、「現代英語研究 I、II」、「感情コミュニケーションと社会的共生 I、II」、「日本表象文化研究 I、II」、「グローバル化と国際的な人の移動 I、II」、「日本語論述表現法 I、II」、「国際交流と日本語教育 I、II」を配置する(各1単位)。

○プログラム専門科目(6単位):多文化共生の観点から 世界の様々な地域の文化的・社会的問題を理解し,その 解決に必要な知識を修得させる。また,現代社会の置か れている状況について学ぶとともに、多文化環境に関する 実践的な活動において活用できる判断力を養成する。授 業科目は、「アメリカ文化研究Ⅰ、Ⅱ」、「イギリス文化研究 Ⅰ,Ⅱ」,「フランス思想・文化研究Ⅰ,Ⅱ」,「西洋史研究 I,Ⅱ」,「性と人権論Ⅰ,Ⅱ」,「東アジア比較文学比較 文化研究Ⅰ,Ⅱ」,「人権と法Ⅰ,Ⅱ」,「ジェンダーとアイ デンティティⅠ, Ⅱ」,「多文化教育研究Ⅰ, Ⅱ」,「シティ ズンシップ教育Ⅰ,Ⅱ」,「日本文学研究Ⅰ,Ⅱ」,「日本 文化研究Ⅰ,Ⅱ」,「文化人類学研究Ⅰ,Ⅱ」,「言語普遍 性と英文法研究 I, III, 「英語音声学 I, III, 「英語学 研究 I, II」,「植民地教育史 I, II」,「外国にルーツを もつ子ども・青年と教育Ⅰ,Ⅱ」,「芸術学研究Ⅰ,Ⅱ」, 「音楽創作文化研究 I, II」,「西洋近現代哲学研究 I,

英文法研究 I, II」,「英語音声学 I, II」,「英語学研究 I, II」,「植民地教育史 I, II」,「外国にルーツをもつ子ども・青年と教育 I, II」,「芸術学研究 I, II」,「音楽創作文化研究 I, II」,「西洋近現代哲学研究 I, II」,「日本史研究 I, II」,「日本語教育学研究 I, II」,「日本史研究 I, II」,「日本語教育学研究 I, II」,「日本語研究 I, II」,「日本語中と日本語研究 I, II」,「古代日本言語文化研究 I, II」,「グローバル時代の学校教育 I, II」を配置する(各 1 単位)。

○他学位プログラム専門科目:指導教員との相談・指導の下で,教育上有益と認める時は,他の学位プログラム(専門科目)から2単位までの修了要件の単位として認める。

なお、専攻の趣旨に沿って他の学位プログラムで開講されている科目の中で、多文化共生学プログラムの目的に関連している科目(「貧困問題と国際協力 I」、「貧困問題と国際協力 I」、「貧困問題と国際協力 II」、「グローバル教育と開発教育 I」、「グローバル教育と開発教育 II」)については、学生向けの「履修案内」と履修計画策定において、研究テーマや学生の関心に応じた履修を推奨するなどの指導を行うこととする。

(69 ページ)

<特別演習(4単位)の内容と養成する能力>

○共通項目

(中略)

○プログラム項目

(中略)

[削除]

<特別研究(6単位)のテーマや内容>

(中略)

【修士論文を課さないコースワーク】

コースワークでは、「多文化共生学特別研究」(6単位) に代えて、「多文化共生学実践プロジェクト」(<u>6</u>単位)の履 修が求められる。内容は以下の通り。

(中略)

(70ページ)

II」,「日本史研究 I, II」,「日本語教育学研究 I, II」,「ヨーロッパ表象文化研究 I, II」,「Comparative Study of Contemporary Cultures I, II」,「日本語史と日本語研究 I, II」,「古代日本言語文化研究 I, II」,「グローバル 時代の学校教育 I, II」を配置する(各 1 単位)。

<特別演習(4単位)の内容と養成する能力>

○共通項目

(中略)

○プログラム項目

(中略)

<「アカデミックコミュニケーション」(2 単位)の内容> 39~41 頁, 1)アカデミックコミュニケーション(2 単位)を 参照。

<特別研究(6単位)のテーマや内容>

(中略)

【修士論文を課さないコースワーク】

コースワークでは、「多文化共生学特別研究」(6単位) 及び「アカデミックコミュニケーション」(2単位)に代えて、「多文化共生学実践プロジェクト」(8単位)の履修が求められる。内容は以下の通り。

(中略)

(58 ページ)

⑧ 地域人間発達支援学プログラム

<カリキュラム・ポリシー>

- ○人間発達支援の専門家として必要な研究・実践倫理, 分野横断的に共通する探求課題やリテラシーを理解し, 基本となるスキルを身に付けるための必修科目を配置
- ○人間の内面的諸相とその発達·成長及び地域社会における課題との関連を学ぶための基盤科目を配置
- ○各ライフステージにおける包摂的で多様な学びの必要性を理解し、地域社会での実践スキルを身につけるための応用科目を配置

○境界領域との学際的思考力やコミュニケーション力を身に付けるため、領域を越えた主指導・副指導体制で研究を行う演習科目を配置

(70 ページ)

<カリキュラムマップ・カリキュラムツリー>

【資料24 <u>カリキュラムマップ・</u>カリキュラムツリー:社会デザイン科学専攻 地域人間発達支援学プログラム】

A 地域創生リテラシー科目(10単位)

研究科の共通科目, <u>55~56</u> 頁「A 地域創生リテラシー 科目(10 単位)」を参照。

B <u>専門科目(20</u>単位)

専門科目として, 境界・学際領域科目, プログラム専門 科目(基盤科目, 応用科目) と「特別演習」(4 単位), 「特別研究」(6 単位)を開講する。

○境界・学際領域科目(1単位):本プログラムの専門領域 に共通する専門知識として,「地域人間発達支援の実際と 課題」(1単位:必修)を配置する。

○基盤科目(2単位以上):人間発達支援のベースとなる人・ヒトの発達,社会学,身体発達,生活・環境創造支援,地域でのアウトリーチ,に関する基盤科目として,「人間発達支援方法論」「生涯発達支援論」「共に生きるかたちの心理学特論」,「社会的思考支援論」、「ヘルスプロモーション特論(SDGs 含む)」、「生活環境創造支援論(SDGs 含む)」、「地域アートマネジメント(美術)」「地域アートマネジメント(音楽)」を配置する(各2単位)。

⑧ 地域人間発達支援学プログラム

<カリキュラム・ポリシー>

○人間発達支援の専門家として必要な研究・実践倫理、分野横断的に共通する探求課題やリテラシーを理解し、基本となるスキルを身に付けるための必修科目を配置 ○人間の内面的諸相とその発達・成長及び地域社会における課題との関連を学ぶため、「ヒューマンディベロプメント支援領域」、「環境・身体クリエーション支援領域」、「表現コミュニケーション支援領域」にわたる専門科目を配置

○境界領域との学際的思考力やコミュニケーション力を身に付けるため、領域を越えた主指導・副指導体制で研究を行う演習科目を配置

(59 ページ)

<カリキュラムツリー>

【資料 24 カリキュラムツリー:社会デザイン科学専攻 地域人間発達支援学プログラム】

A 地域創生リテラシー科目(8単位)

研究科の共通科目, <u>44~45</u>頁「A 地域創生リテラシー 科目(<u>8</u>単位)」を参照。

B プログラム科目(22 単位)

プログラム科目として、専門科目と「特別演習」(4単位)、「アカデミックコミュニケーション」(2単位)、「特別研究」(6単位)を開講する。

○共通必修科目(1 単位):人間発達支援が対象とする課題への理解を深めるために,「地域人間発達支援の実際と課題」(1単位:必修)を配置する。

○ヒューマンディベロプメント支援科目(2単位以上):人間の内的諸相とその発達・成長及び地域社会における課題との関連を、心理学等を基盤としながら、心の発達面から専門知識・技術を修得する。授業科目は、「教育方法支援論」、「社会的思考支援論」、「生涯発達支援論」、「認知心理的支援論」、「共に生きるかたちの心理学特論」を配置する(各2単位)。

○環境・身体クリエーション支援科目(2単位以上):人間

○応用科目(4単位以上):人間発達に関する人間の思考,生活・社会・環境,身体・健康,表現・コミュニケーションのそれぞれの領域で高度な専門知識を修得する。授業科目は,「認知心理的支援論」(2),「遊びと感情の社会学特論」(2),「地域環境システム論」(2),「衣環境学特論」(2),「生活経営支援論」(2),「消費者教育支援論」(2),「健康管理支援論」(2),「身体科学特論」(1),「運動発達特論」(2),「身体運動学演習」(1),「スポーツ指導支援論」(1),「生涯身体発達支援論」(2),「情報コミュニケーション演習」(2),「情報科学技術特論」(2),「科学コミュニケーション演習」(2),「造形表現支援演習」(2),「平面表現技法分析論」(2),「地域デザインプロジェクト」(2),「舞台芸術分析論」(2),「音声デザイン支援論」(2),「サウンド・コラボレーション」(2),「外国語コミュニケーション演習」(2),「論理表現コミュニケーション演習」(2)を配置する。

○他学位プログラム専門科目:指導教員との相談・指導の下で,教育上有益と認める時は,他の学位プログラム(専門科目)から2単位までの修了要件の単位として認める。

なお、専攻の趣旨に沿って他の学位プログラムで開講されている科目の中で、地域人間発達支援学プログラムの目的に関連している科目(「貧困問題と国際協力 II」、「環境問題とガバナンス II」)については、学生向けの「履修案内」と履修計画策定において、研究テーマや学生の関心に応じた履修を推奨するなどの指導を行うこととする。

(中略)

○プログラム項目

(中略)

このため、「地域人間発達支援学特別演習」を配置する。 [削除]

(以下略)

の内的諸相とその発達・成長及び地域社会における課題との関連を、運動学や生活環境論等を基盤としながら、身体の発達面から専門知識・技術を修得する。授業科目は、「遊びと感情の社会学特論」(2)、「地域環境システム論」(2)、「衣生活科学支援論」(2)、「生活環境学支援論」(2)、「生活経営支援論」(2)、「消費者教育支援論」(2)、「健康管理支援論」(2)、「身体科学特論」(1)、「運動発達特論」(2)、「身体運動学演習」(1)、「スポーツ指導支援論」(1)、「生涯身体教育支援論」(2)、「ヘルスプロモーション特論」(2)を配置する。

○表現コミュニケーション支援科目(2単位以上):人間の内的諸相とその発達・成長及び地域社会における課題との関連を、音楽・美術・コミュニケーションなどの表現論等を基盤としながら、表現・コミュニケーションの発達面から専門知識・技術を修得する。授業科目は、「情報コミュニケーション演習」(2)、「精報科学技術特論」(2)、「科学コミュニケーション演習」(2)、「美術表現コミュニケーション演習」(2)、「美術表現技法演習A、B」(各 1)、「デザイン演習Ⅰ、Ⅱ」(各 1)、「音楽コミュニケーション演習」(2)、「音楽表現コミュニケーション演習」(2)、「青楽表現コミュニケーション演習」(2)、「赤楽特別演習」(2)、「外国語コミュニケーション演習」(2)、「需要特別演習」(2)、「論理表現コミュニケーション演習」(2)、「論理表現コミュニケーション演習」(2)、「論理表現コミュニケーション演習」(2)を配置する。

(中略)

○プログラム項目

(中略)

このため、「地域人間発達支援学特別演習」を配置する。 <「アカデミックコミュニケーション」(2 単位)の内容>

<u>39~41 頁, 1)アカデミックコミュニケーション (2 単位)を</u>参照。

(改善意見) 地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻 (M)

【教育課程等】

18. <学位プログラムにおける教育内容の充実>

地域社会デザイン学(農業・農村経済学)プログラムについて、プログラム名に「経済学」 を掲げるのであれば、例えば、農業経済学に関する授業科目を基礎科目で開講するなど、経 済学に関する科目の充実が必要であると考えるため、その対応方針について明確にすること。

(対応)

社会デザイン科学専攻の目的は、「21 世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を形成するために、地域社会に関するソフトウェア(コミュニティ、社会制度、文化、政策等)やハードウェア(建築、国土保全、環境等)のデザインについて教育研究を推進」することである。そして、地方等において主要産業である農業・農村に関する、社会制度、政策などのソフトウェアの在り方を教育研究する分野として同専攻に農業・農村経済学プログラム(変更前:地域社会デザイン学(農業・農村経済学)プログラム)を配置している。なお、プログラム名称については、名称の類似性に係る意見を踏まえ、境界・学際領域の関連性を強調した名称から、プログラムの専門性をより担保し、誤解を招かないよう変更した。

農業・農村経済学プログラムの育成する人材像は、「農業・農村経済学の高度な知識・技術を修得して、食料・農業・農村に関する社会システムをデザインする能力を有し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献できる人材」としていることから、この趣旨に沿った専門科目の構成について見直しを行い、本意見を踏まえ、経済学に関する科目の充実等について、次のように変更した。

農業・農村に関わる経済的仕組みに関する専門知識を養成するために、「農業・農村経済学」をプログラムの基盤科目として新たに配置した。

また、専攻の趣旨に沿って他の学位プログラムで開講されている科目の中で農業・農村経済学プログラムの目的に関連している科目(「経済政策論」、「政策分析とガバナンス」、「農業農村の組織マネジメント」)については、学生向けの「履修案内」と履修計画策定において、研究テーマや学生の関心に応じた履修を推奨するなどの指導を行うこととする。

- ・「経済政策論」… 経済政策の変遷を想定しながら新しい経済政策の経済理論に関する専門知識を 養成するため
- ・「政策分析とガバナンス」… 経済政策に対応する組織について分析とマネジメントの観点から専門 知識を養成するため
 - •「農業農村の組織マネジメント」… 経済政策に対応して農業・農村に関わる組織を如何にマネジメントするかに関する専門知識を養成するため

以上の内容を、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載する。

(56 ページ)

2)学位プログラムのカリキュラム・ポリシーとカリキュラムツ

(中略)

(59 ページ)

②農業・農村経済学プログラム

(中略)

<カリキュラムマップ・カリキュラムツリー>

【資料 24 <u>カリキュラムマップ・</u>カリキュラムツリー:社会デザイン科学専攻 農業・農村経済学プログラム】

A 地域創生リテラシー科目(10単位)

研究科共通, <u>55~56</u> 頁「A 地域創生リテラシー科目 (10 単位)」を参照。

B 専門科目(20単位)

専門科目として, <u>境界・学際領域科目, プログラム</u>専門 科目<u>(基盤科目, 応用科目)</u>と「特別演習」(4 単位),「特 別研究」(6 単位)を開講する。

○<u>境界・学際領域科目</u>(1 単位):地域の現状への理解を深め課題に即した包括的な捉え方の基礎を身に付けるために、「地域社会デザイン学分析展開論:実践を問い、現場に還す」(1単位:<u>必修</u>)をコミュニティデザイン学プログラムとの連携共通科目として配置する。

[削除]

○<u>基盤</u>科目(3 単位以上):食料・農業・農村の課題に対する考察力・分析力の基盤として、農業経済学、農政学、農村社会学等の専門知識を養成する。授業科目は、「農業・農村経済学」、「農政学」、「農業生産組織論」、「農業・農村史」、「農村社会学」、「アグリビジネス論」、「農村地理学」を配置する(各1単位)。

○応用科目(3 単位以上):食料・農業・農村の課題に対する実践的応用力を養成する。授業科目は、「マーケティング論」、「ソーシャルビジネス論」、「統計分析論」、「環境経済学」、「フードシステム学」を配置する(各 1 単位)。

(46 ページ)

2)学位プログラムのカリキュラム・ポリシーとカリキュラムツ

(中略)

(48 ページ)

②地域社会デザイン学(農業・農村経済学)プログラム

(中略)

(49 ページ)

<カリキュラムツリー>

【資料 24 カリキュラムツリー:社会デザイン科学専攻 地域社会デザイン学(農業・農村経済学)プログラム】

A 地域創生リテラシー科目(8単位)

研究科共通, <u>44~45</u> 頁「A 地域創生リテラシー科目 (8単位)」を参照。

B プログラム科目(22 単位)

<u>プログラム科目</u>として,専門科目と「特別演習」(4 単位),「アカデミックコミュニケーション」(2 単位),「特別研究」(6 単位)を開講する。

○分析展開科目(1 単位):地域の現状への理解を深め 課題に即した包括的な捉え方の基礎を身に付けるため に、「地域社会デザイン学分析展開論:実践を問い、現 場に還す」(1単位:<u>必修</u>)を<u>地域社会デザイン学(コミュニ</u> ティデザイン)との連携共通科目として配置する。

○プログラム専門科目(6単位以上):

基礎科目:食料・農業・農村の課題に対する考察力・分析力の基盤として、農業経済学、農政学、農村社会学等の専門知識を身に付ける。授業科目は、「農政学」、「農業生産組織論」、「農業・農村史」、「農村社会学」、「アグリビジネス論」、「農村地理学」を配置する(各 1 単位)。

応用科目:食料・農業・農村の課題に対する実践的応用力を養成する。授業科目は、「マーケティング論」、「ソーシャルビジネス論」、「統計分析論」、「環境経済学」、「フードシステム学」を配置する(各1単位)。

○他学位プログラム専門科目:指導教員との相談・指導 の下で,教育上有益と認める時は,他の学位プログラム (専門科目)から 3 単位まで修了要件の単位として認め る。 ○他学位プログラム科目:地域社会デザイン学(コミュニティデザイン学)プログラムの「社会システムデザイン科目」及び「地域資源マネジメント科目」からの履修を認める(修了要件については3単位まで認定)。

なお、専攻の趣旨に沿って他の学位プログラムで開講されている科目の中で農業・農村経済学プログラムの目的に関連している科目(「経済政策論」、「政策分析とガバナンス」、「農業・農村の組織マネジメント」)については、学生向けの「履修案内」と履修計画策定において、研究テーマや学生の関心に応じた履修を推奨するなどの指導を行うこととする。

<特別演習(4単位)の内容と養成する能力> (中略)

○プログラム項目

コミュニティの形成と発展を支える,多様な分野の(中略)

このため、「農業・農村経済学特別演習」を配置する。 [削除]

<特別研究(6 単位)のテーマや内容> (以下略) <特別演習(4単位)の内容と養成する能力> (中略)

○プログラム項目

コミュニティの形成と発展を支える,多様な分野の(中略)

このため、「農業・農村経済学特別演習」を配置する。
<「アカデミックコミュニケーション」(2単位)の内容>

39~41 頁, 1)アカデミックコミュニケーション(2単位)を 参照。

<特別研究(6 単位)のテーマや内容> (以下略) (改善意見) 地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻 (M)

【教育課程等】

- 19. <グローバル・エリアスタディーズプログラムの説明が不明瞭> グローバル・エリアスタディーズプログラムについて,以下の点を明確にすること。
- (1) エリアスタディーズ科目が、特定の地域に偏っていることについて、プログラムの育成する人材像や養成する能力を踏まえて適切であることを明確にすること。

(対応)

専攻の目的に対するグローバル・エリアスタディーズプログラムの位置付けと, 育成する人材像を踏まえて, プログラムの基本構成と地域の考え方について説明した。その内容は, 次の通りである。

<育成する人材像,養成する能力と科目構成>

改善意見 4 に関連して専攻の目的(社会デザイン)に対して、グローバル・エリアスタディーズプログラムの役割は、21 世紀の地域社会における急速なグローバル化、グローバル化に関連した社会制度や政策等のソフトウェアの在り方を教育研究する分野であり、具体的には、人間の安全保障、多様な紛争の解消、環境に対する国際協調が求められていることから、貧困問題、人間の安全保障など、単独の地域・国では解決できない新しいつながり・枠組みを創造(デザイン)する力を養成することである。そして、グローバル・エリアスタディーズプログラムの育成する人材像は、「日本及び世界各地で発生している諸問題を理解・解決するための高度な知識・技術を修得して、グローバルな観点から社会をデザインする能力を有し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献できる人材」としている。

学位プログラムの専門科目の「境界・学際領域科目(グローバル・エリアスタディーズ総合講義)」、「基盤科目」、「グローバル・スタディーズ科目」では、国家間及び国家-社会関係を重層的かつグローバルに分析するための理論的枠組みに関する専門科目を配置している。これに対して、「エリアスタディーズ科目」では、研究対象地域に見られる諸問題を、当該地域の固有性(産業構造、歴史的経緯、民族配置、域内政治)に基づいて理解する能力を養う科目及び研究対象地域における調査・研究を行うための科目を配置している。

その多くは、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ地域に関する科目である。これらの地域は、20 世紀末から 急激な経済成長を続けているがゆえに不平等な社会開発や環境問題、非効率なガバナンスといった問題に直面しながらも、21 世紀の国際社会における政治・経済に大きな影響力を与えると予想されている地域である。また、これらの地域は援助対象国から援助提供国へと変貌しつつあり(一部は変貌を達成しつつある)、グローバルな政治的安定や持続的成長に協力して取り組むパートナーになりつつあるため、国際的な事象はもとより、日本国内の経済成長や政治・社会的安定を考察する際にも、これらの地域に関する専門的な知識を修得することが重要となる。

以上のことから、本学位プログラムではこの地域に焦点を当てることにした。

本意見を踏まえ,以上の内容を,「設置の趣旨等を記載した書類」に記載する。

新

(65 ページ)

⑥ グローバル・エリアスタディーズプログラム

(中略)

<カリキュラムマップ・カリキュラムツリー>

【資料 24 <u>カリキュラムマップ・</u>カリキュラムツリー:社会デザイン科学専攻 グローバル・エリアスタディーズプログラム】

A 地域創生リテラシー科目(10単位)

研究科の共通科目, $55\sim56$ 頁「A 地域創生リテラシー科目 (10 単位)」を参照。

B 専門科目(20単位)

専門科目として、境界・学際領域科目、プログラム専門 科目(基盤科目、グローバル・スタディーズ科目、エリアス タディーズ科目)と「特別演習」(4 単位)、「特別研究」(6 単位)を開講する。

○境界・学際領域科目(1単位):日本及び世界各地で発生している諸問題を包括的に理解し、グローバルな観点から社会をデザインするのに必要な専門的知識の基礎を養成する。授業科目は、「グローバル・エリアスタディーズ総合講義」(1年次必修科目、1単位)を配置する。この科目は、本プログラムが対象とする課題は多様に複雑化しており、それらに貢献する能力を体系的に修得するための共通基盤として新規に開講した。

○基盤科目: (2 単位以上): グローバルな諸問題を普遍的な視座から分析・対応するための基盤を身に付けるために, 貧困, 国際協力, 環境, 人間の安全保障, 人権等に関する科目を配置した。授業科目は,「貧困問題と国際協力Ⅰ」,「防災と国際協力Ⅰ」,「環境問題とガバナンスⅠ」,「国際 NPO 起業とその実践Ⅰ」など9科目を配置した。

○グローバル・スタディーズ科目(2単位以上):<u>今日世界が直面する貧困・環境問題や人権・安全保障の問題とその解決のための国際協力・開発教育などを理解するため</u>

(54 ページ)

⑥ グローバル・エリアスタディーズプログラム

(中略)

(55 ページ)

<カリキュラムツリー>

【資料 24 カリキュラムツリー:社会デザイン科学専攻 グローバル・エリアスタディーズプログラム】

A 地域創生リテラシー科目(8単位)

研究科の共通科目, <u>44~45</u> 頁「A 地域創生リテラシー科目(8単位)」を参照。

B プログラム科目(22 単位)

プログラム科目として,専門科目と「特別演習」(4 単位),「アカデミックコミュニケーション」(2 単位),「特別研究」(6 単位)を開講する。

○グローバル・スタディーズ科目(2単位以上):<u>国家間及び国家-社会関係を重層的かつグローバルに分析するための理論的枠組みを</u>,国際政治学,国際経済学等の知

の科目を配置する。院生が自身の研究テーマに応じ、必要な分析手法を獲得することを目的に選択して履修する。授業科目は、「貧困問題と国際協力Ⅱ」、「防災と国際協力Ⅱ」、「環境問題とガバナンスⅡ」、「情報ネットワークと技術Ⅱ」、「人間の安全保障と国連Ⅱ」、「国際人権保障と平和構築Ⅱ」、「Globalization and Project ManagementⅡ」、「グローバル教育と開発教育Ⅱ」、「国際NPO起業とその実践Ⅲ」を配置する(各1単位)。この科目は、基盤科目の専門性を更に高度化する科目と繋がっている。

○エリアスタディーズ科目(4単位以上):世界の様々な問題は多様な地域性を帯びており、その理解は問題理解や解決のために不可欠である。この点に鑑み、多様な地域を理解する能力を養う。院生は自身の研究対象地域に近い地域を選択して履修する。授業科目は、「タイの開発と地域社会 I、II」、「東アジアの国際政治と歴史 I、II」、「東アジアの歴史と文化 I、II」、「日本の自然と地域生活 I、II」、「アメリカの経済と金融 I、II」、「ラテンアメリカの経済と社会 I、II」、「中東地域の政治と社会 I、II」、「東アフリカの社会開発と文化 I、II」を配置する(各1単位)。

(中略)

○プログラム項目

(中略)

[削除]

<特別研究(6単位)のテーマや内容>

○共通項目 研究者として必要な倫理観を養成する。

○プログラム項目

(以下略)

見を踏まえた科目を配置する。院生が自身の研究テーマに応じ、必要な分析手法を獲得することを目的に選択して履修する。授業科目は、「貧困問題と国際協力I, II」、「防災と国際協力I, II」、「環境問題とガバナンスI, II」、「情報ネットワークと技術I, II」、「人間の安全保障と国連I, II」、「国際人権保障と平和構築I, II」、「Globalization and Project ManagementI, II」、「グローバル教育と開発教育I, II」、「国際 NPO 起業とその実践I, II」を配置する(各 1 単位)。

○エリアスタディーズ科目(2単位以上):研究対象地域に 見られる諸問題を,当該地域の固有性(産業構造,歴史 的経緯,民族配置,域内政治)に基づいて理解する能力 を養う。院生は自身の研究対象地域に近い地域を選択し て履修する。授業科目は、「タイの開発と地域社会 I、 Ⅲ」、「東アジアの国際政治と歴史 I、Ⅲ」、「東アジアの歴 史と文化 I、Ⅲ」、「日本の自然と地域生活 I、Ⅲ」、「アメリ カの経済と金融 I、Ⅲ」、「ラテンアメリカの経済と社会 I、 Ⅲ」、「中東地域の政治と社会 I、Ⅲ」、「東アフリカの社会 開発と文化 I、Ⅲ」を配置する(各 1 単位)。

(中略)

○プログラム項目

(中略)

(56 ページ)

<「アカデミックコミュニケーション」(2 単位)の内容>

39~41 頁, 1)アカデミックコミュニケーション(2 単位)を 参照。

<特別研究(6単位)のテーマや内容>

○共通項目

研究者として必要な倫理観を養成する。

○プログラム項目

(改善意見) 地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻 (M)

【教育課程等】

- 19. <グローバル・エリアスタディーズプログラムの説明が不明瞭> グローバル・エリアスタディーズプログラムについて,以下の点を明確にすること。
- (2)養成する人材像を明確にするとともに、必要に応じてプログラム共通の授業科目を開講するなど、専門性を担保するための方針について明確にすること。

(対応)

グローバル・エリアスタディーズプログラムにおいて、本意見を踏まえて、日本及び世界各地で発生している諸問題を包括的に理解し、グローバルな観点から社会をデザインするのに必要な専門的知識の基礎を養成するために、「グローバル・エリアスタディーズ総合講義」(1年次のプログラム必修科目、1単位)を新しく配置した。これらの内容は、次の通りである。

<授業科目の体系…専門性の担保:グローバル・エリアスタディーズプログラム>

グローバル・エリアスタディーズプログラムでは、「日本及び世界各地で発生している諸問題を理解・解決するための高度な知識・技術を修得して、グローバルな観点から社会をデザインする能力を有し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献できる人材」を育成するために、ディプロマ・ポリシーを

DP1:国際開発や国際協力等に関する高度な専門知識・技術を身に付けて, グローバルな諸問題を理解 し解決する能力を修得している。

DP2:世界各地の政治・社会の多様性等に関する高度な教養を身に付けて, 課題に対する学際的な思考能力を修得している。

DP3:日本及び世界各国の諸問題・諸課題に対して、グローバルな観点から問題解決を実践するために 具体的な情報収集、調査・分析する能力を修得している。

DP4: グローバルな実務に対応可能な企画・提案能力とコミュニケーション能力を修得している。 と設定した。

また、教育課程は、「地域創生リテラシー」と「専門科目」(境界・学際領域科目、基盤科目、グローバル・スタディーズ科目、エリアスタディーズ科目、特別演習、特別研究、実践プロジェクト)で構成される。

「地域創生リテラシー」は、学際的思考力と実践力を養成する基盤をなすものであり、その後の専門科目に繋がり、最終的には DP1~DP4 に関連してくる科目群である。そのなかで、「アカデミックコミュニケーション」は境界・学際領域科目、基盤科目、グローバル・スタディーズ科目、エリアスタディーズ科目から繋がり、異分野との学術交流を通じて実践的に学際的思考力が強化される。その後、特別演習、特別研究、実践プロジェクトに結びついて、集大成として高度な専門性と学際的思考力・実践力を養成するものであり、特に DP1~DP3 につながる。

「境界・学際領域科目」は、日本及び世界各地で発生している諸問題を包括的に理解し、グローバルな観点から社会をデザインするのに必要な専門的知識の基礎を養成するために、「グローバル・エリアスタディーズ総合講義」(1年次のプログラム必修科目、1単位)を配置した。この科目は、本意見を踏まえて、本プログラムが対象とする課題は多様に複雑化しており、それらに貢献する能力を体系的に修得するための共通基盤として新規に開講した。このことから、この科目は DP1~DP4 の全てに関連している。

「基盤科目」は、グローバルな諸問題を普遍的な視座から分析・対応するための基盤を身に付けるために、 貧困、国際協力、環境、人間の安全保障、人権等に関する科目を配置した。具体的には、「貧困問題と 国際協力 I 」(DP1)、「防災と国際協力 I 」(DP2)、「環境問題とガバナンス I 」(DP1)、「国際 NPO 起業 とその実践 I 」(DP3)等、9 科目を配置した。

「グローバル・スタディーズ科目」は、今日世界が直面する貧困・環境問題や人権・安全保障の問題とその解決のための国際協力・開発教育などを理解するための科目を配置した。具体的には、「情報ネットワークと技術 II」(DP3)、「人間の安全保障と国連 II」(DP1)、「防災と国際協力 II」(DP3)、「環境問題とガバナンスII」(DP2)等、9 科目を配置。この科目は、基盤科目の専門性を更に高度化する科目と繋がっている。

「エリアスタディーズ科目」は、世界の様々な問題は多様な地域性を帯びており、その理解は問題理解や解決のために不可欠である。この点に鑑み、多様な地域を理解するための科目を配置した。具体的には、「タイの開発と地域社会 I 、II 」(DP2)、「東アジアの国際政治と歴史 I 、II 」(DP2)、「ラテンアメリカの経済と社会 I 、II 」(DP2)、「中東地域の政治と社会 I 、II 」(DP2)等,18 科目を配置した。

以上のように、「地域創生リテラシー」と「専門科目」(境界・学際領域科目、基盤科目、グローバル・スタディーズ科目、エリアスタディーズ科目、特別演習、特別研究、実践プロジェクト)が体系的に連なって、人材養成の目的を果たしている。

ΙH

本意見を踏まえ,以上の内容を,「設置の趣旨等を記載した書類」に記載する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (65ページ)

材	IF
(65 ページ)	(54 ページ)
⑥ グローバル・エリアスタディーズプログラム	⑥ グローバル・エリアスタディーズプログラム
(中略)	(中略)
	(55 ページ)
< <u>カリキュラムマップ</u> ・カリキュラムツリー>	<カリキュラムツリー>
(中略)	(中略)
A 地域創生リテラシー科目(<u>10</u> 単位)	A 地域創生リテラシー科目(<u>8</u> 単位)
研究科の共通科目, <u>55~56</u> 頁「A 地域創生リテラシー	研究科の共通科目, <u>44~45</u> 頁「A 地域創生リテラシー
科目(<u>10</u> 単位)」を参照。	科目(8単位)」を参照。
B <u>専門科目(20</u> 単位)	B <u>プログラム科目 (22</u> 単位)
専門科目として,境界・学際領域科目,プログラム専門	プログラム科目として,専門科目と「特別演習」(4 単
科目(基盤科目, グローバル・スタディーズ科目, エリアス	位), 「アカデミックコミュニケーション」(2 単位), 「特別研
タディーズ科目)と「特別演習」(4単位),「特別研究」(6単	究」(6 単位)を開講する。
位)を開講する。	
○境界・学際領域科目(1 単位):日本及び世界各地で発	
生している諸問題を包括的に理解し、グローバルな観点	
から社会をデザインするのに必要な専門的知識の基礎を	

養成する。授業科目は、「グローバル・エリアスタディーズ総合講義」(1年次必修科目、1単位)を配置する。この科目は、本プログラムが対象とする課題は多様に複雑化しており、それらに貢献する能力を体系的に修得するための共通基盤として新規に開講した。

○基盤科目: (2 単位以上): グローバルな諸問題を普遍的な視座から分析・対応するための基盤を身に付けるために, 貧困, 国際協力, 環境, 人間の安全保障, 人権等に関する科目を配置した。授業科目は,「貧困問題と国際協力Ⅰ」,「防災と国際協力Ⅰ」,「環境問題とガバナンスⅠ」,「国際 NPO 起業とその実践Ⅰ」など 9 科目を配置した。

○グローバル・スタディーズ科目(2 単位以上): 今日世界が直面する貧困・環境問題や人権・安全保障の問題とその解決のための国際協力・開発教育などを理解するための科目を配置する。院生が自身の研究テーマに応じ、必要な分析手法を獲得することを目的に選択して履修する。授業科目は、「貧困問題と国際協力Ⅱ」、「防災と国際協力Ⅱ」、「環境問題とガバナンスⅡ」、「情報ネットワークと技術Ⅱ」、「人間の安全保障と国連Ⅱ」、「国際人権保障と平和構築Ⅱ」、「Globalization and Project Management Ⅲ」、「グローバル教育と開発教育Ⅱ」、「国際 NPO 起業とその実践Ⅱ」を配置する(各1単位)。この科目は、基盤科目の専門性を更に高度化する科目と繋がっている。

○エリアスタディーズ科目(4_単位以上):世界の様々な問題は多様な地域性を帯びており、その理解は問題理解や解決のために不可欠である。この点に鑑み、多様な地域を理解する能力を養う。院生は自身の研究対象地域に近い地域を選択して履修する。授業科目は、「タイの開発と地域社会 I、II」、「東アジアの国際政治と歴史 I、II」、「東アジアの歴史と文化 I、II」、「日本の自然と地域生活 I、II」、「アメリカの経済と金融 I、II」、「ラテンアメリカの経済と社会 I、II」、「中東地域の政治と社会 I、II」、「東アフリカの社会開発と文化 I、II」を配置する(各 1 単位)。(以下略)

○エリアスタディーズ科目(2単位以上):研究対象地域に見られる諸問題を,当該地域の固有性(産業構造,歴史的経緯,民族配置,域内政治)に基づいて理解する能力を養う。院生は自身の研究対象地域に近い地域を選択して履修する。授業科目は、「タイの開発と地域社会 I、II」、「東アジアの国際政治と歴史 I、II」、「東アジアの歴史と文化 I、II」、「日本の自然と地域生活 I、II」、「アメリカの経済と金融 I、II」、「ラテンアメリカの経済と社会 I、II」、「中東地域の政治と社会 I、II」、「東アフリカの社会開発と文化 I、II」を配置する(各 1 単位)。

(改善意見) 地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻 (M), 工農総合科学専攻 (M)

【教育課程等】

20. <学位論文審査体制の説明が不十分>

学位論文審査体制について、主査1名(主指導教員)と副査2名(副指導教員)で構成する計画であるが、客観的な学位の質保証の観点から外部委員等の採用も考えられるため、その対応方針について説明すること。【2専攻共通】

(対応)

客観的な学位の質保証について、他の専門分野の教員が加わった複数指導教員による審査と、審査に至る発表会(中間発表会、最終発表会)の公開及びプログラム会議、専攻会議、研究科代議員会における審査判定の公表と決定というプロセスで客観性は担保されていると考えていたが、本意見を踏まえて、客観性の観点から次のように強化した。

客観的な学位の質保証の観点から、次のように学位審査の体制を変更した。

審査委員会の構成を3名から、同じ専門分野から1名を加えた4名(主指導教員1名、副指導教員2名、同じ専門分野の教員1名)に変更した。そして、審査委員長(主査)は専門性と客観的な学位の質保証の観点から同じ専門分野の教員が務め、委員会で意見が分かれた場合には委員長の裁定によるものとする。なお、学位の専門性を担保する観点から、主指導教員と第1副指導教員が構成員となる。また、学際的な観点から第2副指導教員(他の学位プログラム教員)と、客観性及び専門性の観点から委員長(同じ専門分野の教員)が構成となっている。このように、専門性を担保しながら客観的に質保証が確保される体制になっている。

本意見を踏まえ,以上の内容を,「設置の趣旨等を記載した書類」に記載する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (91~92ページ)

新 旧 (91 ページ) (79 ページ)

(2)学位審査体制等

本研究科では学位審査にあたって、修士論文を課す 場合と修士論文分を課さないコースワークの場合がある が、学位審査はともに同じ人数・構成の学位審査委員会 によって審査される。

なお、修士論文を課さないコースワークは、文系の学位プログラムにおいて設けている。一方で、実践的で高度な専門的知識と技術(実験手法や設計手法等)を修得するために必要な実験・実習や特別演習、特別研究が必須であり、修士論文を通して新しいものの探求・創造が重要である理系の学位プログラムにおいては修士論文を課して、コースワークによる修了を設けていない。

(2)学位論文審査体制

修士論文審查員は主查 1 名(主指導教員)と副查 2 名(副指導教員)で構成され、審查員による修士論文の評価・審査を資料として学位プログラムごとに審議され、その結果は各専攻教授会での審議を経て、研究科代議員会で最終決定される。学位論文の審査に関連する中間発表会と最終発表会は、原則として学位プログラム単位で実施し、指導教員以外の他の多くの教員も参加して、質疑応答を実施する。なお、修了要件については、後述する。

<学位審査委員会>

学位審査委員会は、主指導教員 1 名と第 1 副指導教員 1名(同じ専門分野)、第 2 副指導教員 1名(他の学位プログラム教員)に同じ専門分野の教員 1 名を加えた 4 名で構成する。この同じ専門分野の教員は、公正性を担保するために「研究科代議員会」*が選出する。そして、審査委員長(主査)は専門性と客観的な学位の質保証の観点から同じ専門分野の教員が務め、委員会で意見が分かれた場合には委員長の裁定によるものとする。

このように,主指導教員と第1副指導教員が参加することによって専門性の質を保証し,審査委員長と第2副指導教員によって客観性を保証する体制となっている。

<修士論文とコースワーク修了の審査>

修士論文を課す場合には、学位審査委員会は修士論 文の審査を行う。また、修士論文を課さない場合には、学 位審査委員会はコースワークの修了要件を満たしている かについて審査を行う。それぞれの修了要件は後述す る。

<学位審査プロセス>

学位審査委員会による評価・審査結果について学位 プログラム会議で審議され、その結果は各専攻教授会で の審議を経て、研究科代議員会で最終決定される。

ここに至るプロセスにおいても客観性を保証する観点から、第2副指導教員、他分野からの学位審査委員の選出は研究科代議員会に諮られる。また、学位論文の審査に関連する中間発表会と最終発表会は公開が原則であり、指導教員以外からも多くの教員が参加して、質疑応答を実施する。

(改善意見) 地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻 (M), 工農総合科学専攻 (M)

【教育課程等】

21. <研究者倫理教育が不十分>

研究者養成に当たっての研究倫理教育が不足しているように考えらえるため, その対応方針について明確にすること。【2専攻共通】

(対応)

研究活動における盗用や捏造、データの改ざん等の不正行為が問題となっている。本研究科においても、社会デザイン及びイノベーションに関する高度専門職業人(技術者や研究者等)の養成に当たって、研究倫理教育は大切だと位置づけており、先端的な研究能力及び研究成果を社会に公表・応用するための情報発信力と倫理観の養成について「特別研究」または、「実践プロジェクト(修士論文を課さないコースワーク)」のなかで専門分野の特性に合わせて実施することとしている。なお、倫理教育のガイドラインとして、日本学術振興会の「研究倫理 e ラーニングコース」やテキスト「科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一」を活用して3時間以上の倫理教育を行うことと、e ラーニング修了証書の提出を義務付けることとした。

本意見を踏まえ、以上の内容を、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載する。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(41ページ)

剃	Iβ
(35ページ)	(32 ページ)
項目IV 教育課程の編成の考え方及び特色	項目IV 教育課程の編成の考え方及び特色
1. 教育課程編成の基本的な考え方	1. 教育課程編成の基本的な考え方
(中略)	(中略)
(41 ページ)	
(4)倫理教育について	
高度専門職業人(技術者や研究者等)の養成にあたっ	
て倫理教育は重要だと位置づけており、特別研究(6単	
位)の中で実施する。これは、アンケートや社会統計によ	
る社会調査や文献分析が大きなウエイトを占める分野	
や、実験や実習が大きなウエイトを占める分野など、専門	
分野の特性に合わせて教育することが必要なことから,	
「特別研究」または、「実践プロジェクト(修士論文を課さな	
いコースワーク)」における必須項目として実施する。具体	
的な内容については,資料22に示している。	
なお,ガイドラインとして,日本学術振興会の「研究倫	
理 e ラーニングコース」やテキスト「科学の健全な発展の	

ために-誠実な科学者の心得-」の活用を示している。
そして,倫理教育を実質化するために,e ラーニング(約
90分)と合わせて3時間以上の倫理教育を行うことと, e ラ
<u>ーニング修了証書の提出を義務付けている。</u>
【資料 22 倫理観の養成】
(以下略)

(改善意見) 地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻 (M), 工農総合科学専攻 (M)

【教育課程等】

22. <学位審査体制等が不明瞭>

修士論文を課さない場合のコースワークに関する以下の点について,学位の質保証の観点を 踏まえ,対応方針を説明すること。【2専攻共通】

(1) プログラムにより修士論文を課さないコースワークを選択できない場合もあり、その違いが不明確である。プログラムごとの設置の趣旨、必要性を踏まえ、その違いを明確にすること。

(対応)

学位審査体制等を明確にするために、修士論文を課す場合と修士論文を課さないでコースワークで修 了する場合とを区分して、「設置の趣旨等を記載した書類」の該当する部分を加筆修正した。また、コース ワークによる修了の設定に関する考え方を、次のように整理した。

修士論文を課さないコースワークによる修了は、文系の学位プログラムにおいて設けている。具体的には、社会デザイン科学専攻のコミュニティデザイン学プログラム、農業・農村経済学プログラム、グローバル・エリアスタディーズプログラム、多文化共生学プログラム、地域人間発達支援学プログラムの5つのプログラムで、コースワークによる修了を認めている。一方で、理系の社会デザイン科学専攻の建築学プログラム、土木工学プログラム、農業土木学プログラム及び工農総合科学専攻の8学位プログラムでは、実践的で高度な専門的知識と技術(実験手法や設計手法等)を修得するために、実験・実習や特別演習、特別研究の教育研究が必須であること。また、地域社会のハードウェアのデザインやイノベーションに関する研究においては、修士論文の研究を通した新しいものの探求と創造は重要である。これらのことから、理系の学位プログラムにおいては、コースワークによる修了を設けていない。

コースワークによる修了を認めている上記の5つのプログラムは、文系のプログラムであり、以下の理由からその必要性があると判断している。①一般に、文系の学位プログラムの目的に沿った特定課題に対する実践活動と実践知の解明作業は、文献検索・調査・立案・実施・報告という一連のプロセスを含んでおり、②文献調査・統計調査・アンケート調査等を含めフィールドワークが大きな重みを持つ場合がある。また、③体系化されたコースワークでは、特化されたテーマに集中して実施する修士論文研究よりも幅広い学修が可能な場合があると考えられる。これらのことから、コースワークによる成果も修士論文研究と同等であると考えている。

このように学際的な思考力と実践力を備えた人材を育成するコースワークは, 持続可能な豊かな地域 社会の創生のために社会デザインに関する従来よりも学際的思考力を備えた高度専門職業人を育成す るという専攻の考え方に合致している。

また,学位審査体制に関する,改善意見 20 や改善意見 22(2),(3)に対応して,審査委員会の構成や評価方法,プロセス等について必要な修正を行った。

本意見を踏まえ,以上の内容を,「設置の趣旨等を記載した書類」に記載する。

新 旧

(54 ページ)

4. 研究科, 専攻, 学位プログラムの方針と教育体系(カリキュラムツリー)

【資料 14 研究科・専攻:教育の3方針】

【資料 15 学位プログラム:教育の3方針①~⑧】

研究科, 専攻, 学位プログラムのディプロマ・ポリシーを 実現するためのカリキュラム・ポリシーを定め, それに沿っ た教育体系を構築した。

なお、修士論文を課さないコースワークによる修了は、 文系の学位プログラムにおいて設けている。一方で、理 系の社会デザイン科学専攻の建築学プログラム、土木工 学プログラム、農業土木学プログラム及び工農総合科学 専攻の8学位プログラムでは、実践的で高度な専門的知 識と技術(実験手法や設計手法等)を修得するために、 実験・実習や特別演習、特別研究の教育研究が必須で あること。また、地域社会のハードウェアのデザインやイノ ベーションに関する研究においては、修士論文の研究を 通した新しいものの探求と創造は重要である。これらのこ とから、理系の学位プログラムにおいては、コースワーク による修了を設けていない。

(1)地域創生科学研究科のカリキュラム・ポリシー (中略)

(91 ページ)

(2)学位審査体制等

本研究科では学位審査にあたって、修士論文を課す 場合と修士論文分を課さないコースワークの場合がある が、学位審査はともに同じ人数・構成の学位審査委員会 によって審査される。

なお,修士論文を課さないコースワークは,文系の学位プログラムにおいて設けている。一方で,実践的で高度な専門的知識と技術(実験手法や設計手法等)を修得するために必要な実験・実習や特別演習,特別研究が必須であり,修士論文を通して新しいものの探求・創造が重

(44ページ)

4. 研究科, 専攻, 学位プログラムの方針と教育体系(カリキュラムツリー)

【資料 13 研究科・専攻:教育の3方針】

【資料 14 学位プログラム:教育の3方針①~⑧】

(1)地域創生科学研究科のカリキュラム・ポリシー (中略)

(79 ページ)

(2)学位論文審査体制

修士論文審査員は主査1名(主指導教員)と副査2名 (副指導教員)で構成され、審査員による修士論文の評価・審査を資料として学位プログラムごとに審議され、その結果は各専攻教授会での審議を経て、研究科代議員会で最終決定される。学位論文の審査に関連する中間発表会と最終発表会は、原則として学位プログラム単位で実施し、指導教員以外の他の多くの教員も参加して、質疑応答を実施する。なお、修了要件については、後述する。 要である理系の学位プログラムにおいては修士論文を課 して、コースワークによる修了を設けていない。

<学位審査委員会>

学位審査委員会は、主指導教員 1 名と第 1 副指導教員 1名(同じ専門分野)、第 2 副指導教員 1名(他の学位プログラム教員)に同じ専門分野の教員 1 名を加えた 4 名で構成する。この同じ専門分野の教員は、公正性を担保するために「研究科代議員会」**が選出する。そして、審査委員長(主査)は専門性と客観的な学位の質保証の観点から同じ専門分野の教員が務め、委員会で意見が分かれた場合には委員長の裁定によるものとする。

このように,主指導教員と第1副指導教員が参加することによって専門性の質を保証し,審査委員長と第2副指導教員によって客観性を保証する体制となっている。

<修士論文とコースワーク修了の審査>

修士論文を課す場合には、学位審査委員会は修士論 文の審査を行う。また、修士論文を課さない場合には、学 位審査委員会はコースワークの修了要件を満たしている かについて審査を行う。それぞれの修了要件は後述す る。

<学位審査プロセス>

学位審査委員会による評価・審査結果について学位 プログラム会議で審議され、その結果は各専攻教授会で の審議を経て、研究科代議員会で最終決定される。

ここに至るプロセスにおいても客観性を保証する観点から、第2副指導教員、他分野からの学位審査委員の選出は研究科代議員会に諮られる。また、学位論文の審査に関連する中間発表会と最終発表会は公開が原則であり、指導教員以外からも多くの教員が参加して、質疑応答を実施する。

(以下略)